

590
410

新興支那の由來と上海

支那問題研究所

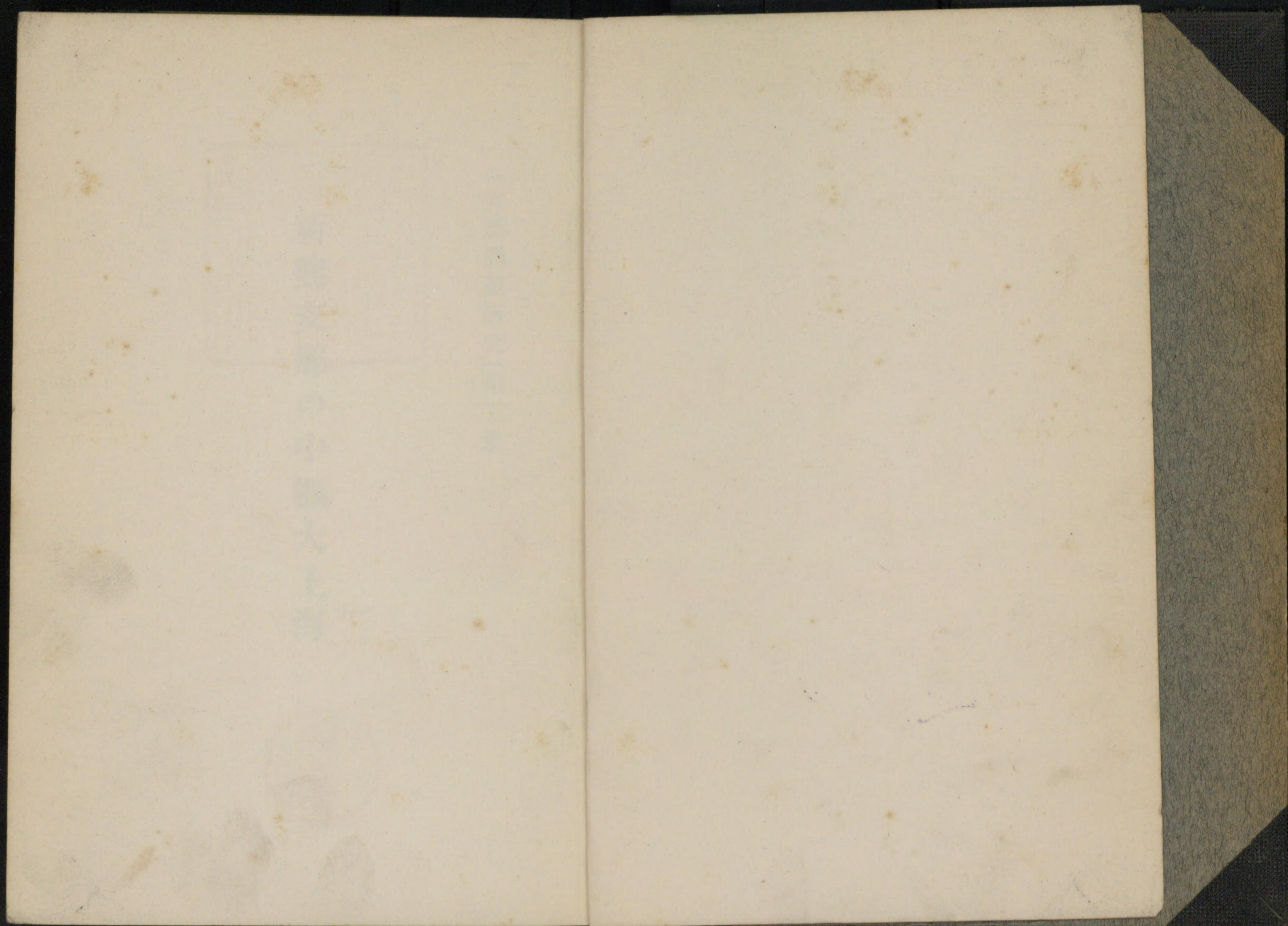
590-410
1200501525739



124

新興支那の中樞大上海

支那問題研究所



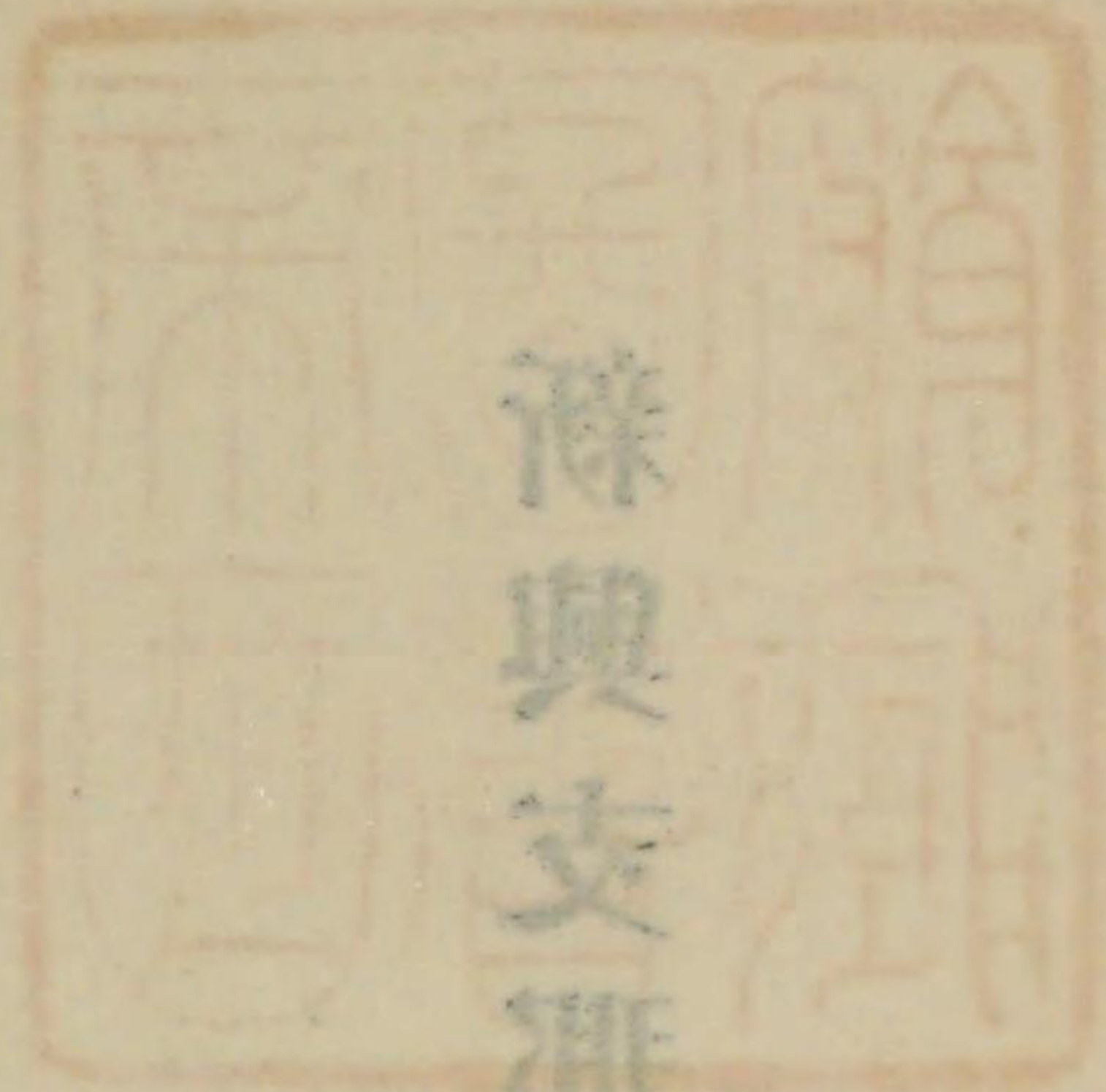
「支那問題研究」第二冊



新興支那の中樞大上海



590-410



新興支那の中樞大土統

「支那問題研究」第二卷



目次

新興支那の中樞大土統……………一

一、上海の成立と發達……………一

二、上海の經濟上の地位……………九

 1、交 通……………一一

 2、貿易及金融……………二七

 3、工 業……………三五

三、上海の政治上の地位……………三七

 1、財源としての上海……………五七

 2、資本関の發生と政治的關係……………六四

四、上海の文化上の地位……………七四

五、上海の將來……………七六

1、上海租界を如何にする……………七六

2、大上海の建設……………八六

3、上海中心主義……………一〇三

4、上海自治案……………一〇八

5、上海獨立運動……………一一〇

6、上海は何處へ行く……………一一五

新興支那の中樞大上海

一、上海の成立と發達

外人が上海を經營し始めて八十年、其間上海は日一日に繁榮に向つたが、最近に於ける支那の混亂と不平等條約撤廢に伴ふ内地租界の返還とは、上海の價値を益々重大ならしめ列國の對支策は上海問題を中心とするに至り、支那の政局も上海の將來により左右されるに至つた。是等の事情に就いては更に後述することとし、それに先ち上海の成立に就て極く概要だけを述べて見たいと思ふ。

上海の名は遠く宋代に始まり、明初には上海縣は松江府に屬し、清初には如明府に屬して居た。民國になつて府を廢したが、三年には道制が布かれ、上海は滬海道に屬するに至つた。一九二六年孫傳芳が淞滬商埠督辦公署を組織し、上海縣の外に寶山縣の一部を加へて特別市とし、省の直轄から離した。翌一九二七年國民黨の南京政府が設けられてから、

上海特別市を設けて中央政府に直隸させ、淞滬商埠の區域外に、寶山縣の大場、揚行二郷松江青浦兩縣七寶郷の一部、松江縣莘莊郷の一部、南匯縣周浦郷の一部を加へ、東西約七十支里、南北約百餘支里、面積百十餘萬支那畝となつた。

上海の全境區劃は清の咸豐末の團練に起り、當時は地方行政の便宜上之を局に分つたが、其中には城局と郷局二十二あり、各局は又圖に分れて居た。後教育上の關係から學區が出来て、城局は老閘、城廂の二局に分つた。各局區の區分左の如し。

區別	圖數	區別	圖數
城廂	九	北郷	九
老閘	三	新閘	一五
江境廂	九	引翔港	六
漕河涇	十	法華	七
塘灣	八	虹橋	八
曹行	九	新涇	七
		諸翟	七

東郷	圖數	西南郷	圖數
江橋	七	陳行	七
塘橋	八	楊思橋	九
洋涇	一三	閔行	一七
高行	一三	北橋	八
陸行	一〇	顯橋	五
東南郷		馬橋	一〇
三林塘			

城廂、老閘は大部分外國租界となり、江境廂も亦一部租界に入つて居る。宣統元年に城鎮自治章程が發布され、城廂、老閘、新閘、江境廂の四區は合して城廂區域となり、租界全部を包有するに至り、塘橋、洋涇、陸行、高行の四區は合して東涇鎮となり、新涇、江橋、諸翟、虹橋の四區は合して蒲淞鎮となつた。城内は租界を除き中東南北の五區に分つた。民國元年に江蘇暫行市郷制が發布され、又城を市に改め、從來の城自治區域を上海市とした。又閘北一區だけを閘北市として別に自治を行はしめ、蒲淞鎮を蒲淞市とし、東涇鎮を洋涇市、塘橋郷、高行郷、陸行郷に分ち、其他は從來の通りとして、四市十五郷が

出来、各々市郷公所を設けて地方事務を辨理した。一九二八年四月に市政府は行政の便を計るため、本市区内の各市郷を區に改稱し、各區に市政委員を設け、市長を任命して各區の市政を辨理せしめた。上海市に編入された各區は、上海縣の上海、閘北、洋涇、蒲淞、引翔、塘橋、法華、楊思、漕河、涇陸行、高行の十一區と寶山縣屬の吳淞、殷行、江灣、眞如、彭浦、高橋の六區である。

上海に市政機關が設けられたのは、清光緒二十一年南市の馬路工程局が馬路構築のため生れたのが始めである。二十三年工事竣工後馬路工程善後局に改稱し、之を民間の手に移し、城内外總工程局を設け、始めて自治を行ひ、凡て市區で舉行すべき事項は次第に其手に移つた。宣統二年自治制を發布し城自治公所に改めた。民國になつて市政廳となり、三年自治を廢して官治とし工巡捐總局に改稱し、七年滬南工巡捐局に改めた。十三年自治復活して上海市公所を設け、十六年七月に上海市政府が成立した。これが南市市政機關の沿革である。

閘北の市政機關は始め閘北工程總局を設け、三十一年五月工程總局を改めて閘北工巡總

局とし、道路を構築し警察を設けたりした。宣統三年に閘北地方自治公所となり、民國元年閘北市政廳に改め、三年に工巡捐分局となつて南市工巡捐總局に屬し、十二月に分辦處となり、七年一月には滬北工巡捐局、十四年に滬北市政廳、十五年閘北市公所となつたが次で滬北工巡捐局となり、滬海道尹の兼管となり、十五年五月滬滬商埠督辦公署の管轄となり、十六年國民革命軍の手に歸してから、商埠公署を廢して滬北工巡捐局を設け、七月市政府に移管した。

南市及閘北以外に上海特別市管内には吳淞區がある。吳淞が開港場となつたのは光緒二十四年に始まり、吳淞開埠工程總局を設けた。民國十年二月に吳淞商埠局を設け、境界を定め計畫を樹て、實行にかゝることになつたが、荏苒數年十四年になつてこれを廢した。

上海市政の統一が企てられたのは十五年の滬滬商埠督辦公署に始まり、滬北工巡捐局を引繼ぎ、南市の自治公所も亦其監督を受けた。十六年三月國民革命軍が上海に入つてから工巡捐局が復活して市政を統一したが、七月になつて市政府が成立し、工巡捐局及南市公所を其手に收めて市政を統一するに至つた。

以上は支那方面から見た上海市の成立であつて、支那側の上海に於ける施設はこゝ、二三十年に過ぎず、上海市を今日の繁榮に持ち來したものは一に外人八十年努力の結晶に外ならない。上海市支那街は租界の發達に伴ふて發達して來たに過ぎない。たゞ上述上海市の成長に就て注意すべきことは、上海が其發展に伴れ周圍の土地を併せて次第に擴大されて行つたこと、及行政は人民の自治と政府の官治とが相交錯し、人民は政府の官治に對して自治を欲求して來たことが分る。

上海が開港場となつたのは阿片戰爭の結果清の道光二十三年、即ち一八四二年八月二十九日に締結された南京條約の結果である。道光二十六、二十八兩年に老閘區の北部を劃して英租界とし、南部を米租界とした。道光二十九年と咸豐十一年の二回に亘り、城廂以北洋涇濱以南を劃して佛租界とした。其後英米租界は合して公共租界となり、英租界を中區米租界を北區とした。光緒二十四年に引翔郷南部を公共租界に編入して東區とし、又虹口租界も呼んだが。二十六年には新閘の中部を公共租界の西區とした。この年又新閘の東南部を開いて佛新租界とし、民國の初め又新閘の南、江境の北を佛租界の新西區とした。

現在上海市支那街の面積は一百十萬畝、公共租界は三萬三千五百畝、佛租界は一萬五千畝、道路の總延長支那街二百基米、公共租界二百七十基米、佛租界九十二基米である。又一九三〇年五月の調査によれば、上海市の人口は左の如く、將に三百萬人に近からんと居る。(上海市政府及租界局調査)

支那街		計	
戸數	人口	戸數	人口
三五〇、四二三	男	計	女
九四九、七一八	男	外	人
七〇一、九〇七	女	同	人
一、六五一、六二五	計	計	戸數
二、〇〇五	計	計	人口
九、五六五	計	計	人口
三五二、四二八	計	計	人口
一、六六一、〇九〇	計	計	人口

公共租界人口

外國人	二九、九四七
支那人	八一〇、二七九

八

佛租界人口(四月調査)

外國人	一一、九二二
支那人	四二一、八八五
人口總計	二、九三六、一二三

又上海市の収入は一九二八年には支那街三百六十萬元、公共租界一千九百萬元、佛租界四百四十三萬元であつて、支那の一省の収入よりも大である。然し歐米や日本の都市に較べては甚だしい。

次には公共機關に就て見るに、給水機關としては支那街には内地自來水公司、閘北水電公司あり、資本金四百五十萬元、一日給水量二千三百萬ガロン、公共租界水道設備資本一百萬磅、一日給水量五千萬ガロン、佛租界水道は滬南蕭家渡にあり、一日給水量八百八十

萬ガロン、電氣は支那街電燈會社六(華商電氣公司、閘北水電公司、浦東電氣公司、翔華電氣公司、眞如電氣公司、寶明電氣公司)資本金六百九十三萬元、點燈戸數二十一萬九千一百二戸、公共租界電燈資本三千一百九十九萬六千六百二十五兩、佛租界電燈資本二千萬元發電容量一萬二千五百基を算する。

公共租界の管理施設に關しては更に章を改めて述ぶることとする。

要するに上海は一の田舎町から八十年間に今日の發達を遂げ、支那に於ける大都市であるだけでなく、東洋に於ける大都市として、經濟上政治上新興支那の中樞となり、新しい支那を知るためには先づ上海を理解する必要がある。そこで次には上海の經濟上政治上の地位を述べ、更に上海の將來に其支那及列國の上に及ぼす影響に就いて説いて見たいと思ふ。

二、上海の經濟上の地位

上海の有つ凡ての力は其經濟上の優越力に發して居る。上海の經濟上の力は又主として

次のこゝに起因して居る。

一〇

- 1、上海の位地の優秀。
- 2、比較的戦亂の禍中から遠ざかつて居たこゝ。
- 3、外人による治安秩序の維持。

上海が地理的に優秀な地位を占めて居る結果は、上海に次のやうな便益を與へた。即ち上海は支那の略々中央に位した海岸で、然も長江の出口にあるために、舟航の中心となつて居るだけでなく、更に南北支那の鐵道の一中心となる。又上海附近は長江下流の最も豊饒な土地で物資資源に富み、多くの原料を得られ且つ人口稠密なるため販路としても優秀であり勞力を得るに便である。

又支那の各省が絶えず戦亂のため悩まされ荒廢して居るに拘らず、上海は民國以來比較的戦禍を脱れて居る。上海附近が戦場になつたのは大正十三年第二奉直戰の序幕をなした江浙戰が始めてある。この戦も江蘇、浙江方面人士の平和運動により戦機が一ヶ年位は延ばされた。次には昭和二年の國民革命軍の北伐戰であるが、これは上海附近では殆ん

ど戦争らしい戦争はしなかつた。これ他の地方が幾回もなく戦場となつて荒廢し盡して居るのに比較すれば、上海附近は殆んど戦禍を知らない云つても宜い位である。

次には上海が外人の手により治安秩序が維持されて居るこゝである。近代都市繁榮のためには生命財産の安全が確保されて居る必要がある。然るに上海は外人の手によりそれが安全にされて居るために、住民は軍閥の苛斂誅求から免れて居る。又上海が外人の武力下に保護されて居る結果は、廣東や武漢のやうに共產黨により破壊され或は擾亂さるゝこゝもなく、又戦亂の波及をも脱るゝ。かくて上海は次第に發達して今日の大上海を造り上げた。上海の經濟上の力を具體的に測定するためには、交通、貿易、工業等に於て、上海が全国的にどれだけの地位を占むるかを知らねばならぬ。そこでこれを具體的の實例に就て示して見やう。

1、交通

交通は鐵道と水運とに分つこゝが出来る。鐵道に於ては現在支那の鐵道網は東西及南北の幹線があり、南北を連ぬるものは大體三線ある。一つは海岸地方を走るもので、津浦線

滬杭甬は其一部をなし、其中央に位するものは上海である。たゞこの線は北部線は完成して居るが、南部線は上海から杭州に至るまで、更に海岸を傳ふて福建から廣東に至るものは豫定線があるだけである。中央線は北京から武漢を経て廣東に至るもので、京漢、湘鄂、奥漢線により殆んど完成に近く、僅かに湖南と廣東の一部に未完成の部を残して居るに過ぎない。西部線は山西の大同から陝西に出て四川の成都に至るもので、未だ當分敷設の豫想が着かない。次に東西線を見るに、最も北にあるものは白河流域を貫く京奉京綏線であり、其次は黄河流域を通ずる隴海線であつて海岸から河南を経て陝西境近くまで伸ばされて居る。其南にあるものは揚子江流域を通ずるものであるが、これは計畫だけで一部分だけが施設されて居るに過ぎない。この線は長江の南岸と北岸との二線があり、南岸にあるものは上海を起點とした滬寧線が其一部をなし、この線は更に寧湘線により湖南に至るべきものである。北岸は豫定線だけで、浦信線により浦口より京漢線に出て、漢川線により更に四川に至るものである。かう見て來れば上海の鐵道網に於ける位置は最も重要な東西線の起點と南北線の中心に位して居るが、支那現在の状態では鐵道の新設延長は當

分望まれないので、既設だけに就て觀察しなければならぬ。この點では上海より寧ろ北京天津の方が恵まれて居る。それは現在の鐵道は多く北京政府時代に敷設されたものである。従て北京政府の武力討伐に便利なやうに、北京天津を中心として設けられて居る。従て北支那に密であつて南に至るに従ひ疎になつて居る。然し南京に首都が移つた今日では將來上海を中心に鐵道網が次第に伸ばさるゝかも知れない。現在上海は津浦線により其商勢力範圍を北に伸し、江蘇、安徽から山東南部に及ぶ、又徐州で隴海線を接続して河南東部をも含めて居る。滬寧線と滬杭甬線は上海市場擴張に影響を與ふるも、線路が短少で大きな効果がない。將來是等の線が延長さるゝに至れば上海市場は大なる便益を受くるに至るであらう。

然し何と云つても上海の交通上に於て有つて居る優越點は水運の上にある。これ支那には鐵道が発達せず、あの廣大なる土地に僅かに六千哩を印するに過ぎず、それも最近軍閥争鬭の結果鐵道は各地軍閥に分割され、車輛の破損、線路の未修繕等で輸送機關としての價値は甚だしく減少して居る。天津が最近衰微したのも鐵道の荒廢によるのである。この

鐵道の未發達及荒廢の結果は水運の價值が非常に増大した。長江一帯が混亂に拘らず經濟的に大した打撃を受けないのは、中支那の大動脈たる揚子江の航運があるからである。

航運に於ける上海の地位は全く他の追従を許さず、上海が今日の大をなすに至つた主因は實にこゝにある。上海は遠洋航路の基點として歐米航路は主として上海に發し、又沿岸航路は南北共に上海を根據として居るし、内河航路が上海を起點として居ることは勿論である。これを實際に就て見るに左の如し。

支那本部主要五港に於ける上海の位置は左の如し。(一九二七年)

(支那海關年報に據る)

港名	出入各國船舶噸數
上海	三〇、一五一、六五三
漢口	四、六〇三、四八三
青島	五、三三六、四二一
廣東	七、五四四、五三〇

天津 二、九二二、四四五

更に上海出入各國船舶の最近數年間の統計左の如し。

年次	隻數	噸數
一九二五	一九、八六一	三〇、二八四、八五五
一九二六	二二、六八六	三三、三二三、四四九
一九二七	二一、五一四	三〇、一五一、六五三

これによつても上海の開港場としての優越的地位は諒解される。次には各航路に就て上海を基點とするものゝ然らざるものゝを比較して見やう。

(一) 遠洋航路

イ、北米航路

國籍船	主航路	使用船數	總噸數
日本郵船	上海—神戸—シヤートル	四	二六、三三一
	香港—上海—神戸—桑港	五	六四、四九三
	北支那—上海—神戸—紐育	一一	七四、九六六
		一五	

米國

ダラー・ライン 桑港—神戸—上海—マニラ—シヤトル 四 五六、五五六

プリンス・ライン 紐育—香港 二一 一三一、六〇一

エラーマン・ライン 紐育—上海—香港 二一 三一、九二八

紐育—香港 九 四六、三七一

紐育—上海—香港 三 五五、二五六

紐育—北支那—上海 三 三一、九五三

紐育—北支那—上海 三 一九、一〇七

紐育—上海—紐育 三 五五、二九五

紐育—上海—紐育 三 二八、七七一

紐育—上海—紐育 三 五二、七七九

紐育—上海—紐育 三 二八、七七一

紐育—上海—紐育 三 五二、七七九

紐育—上海—紐育 三 二八、七七一

紐育—上海—紐育 三 五二、七七九

紐育—上海—紐育 三 二八、七七一

紐育—上海—紐育 三 五二、七七九

紐育—上海—紐育 三 二八、七七一

紐育—上海—紐育 三 五二、七七九

紐育—上海—紐育 三 二八、七七一

紐育基點世界一周

カー・ライン 同 八 八七、八八八

アメリカン・メール・ライン 同 六 三一、八〇〇

シヤートル—上海—北支那 七 七〇、七三一

シヤートル—上海—南支—比律賓 七 五〇、七一三

タコマ—北支那 七 四五、一八二

タコマ—南支那—比律賓 七 六一、八一八

ポートランド北支那 一一 六〇、一〇七

ポートランド南支那—比律賓 一一 四五、六六二

オセアニック・エント 九 七二、七一八

オリエンタル・ライン 九 二二、〇〇〇

アメリカン・バイオニア 七 二二、〇〇〇

メキシコ—上海—比律賓 一〇 二二、〇〇〇

紐育—上海—比律賓 四 二二、〇〇〇

紐育—神戸—上海 一七

英國

加奈陀太平洋 三 三一、九五三

青 井 三 一九、一〇七

エラーマン・ライン 紐育—上海—香港 二一 三一、九二八

プリンス・ライン 紐育—香港 九 四六、三七一

紐育—上海—香港 三 五五、二五六

紐育—北支那—上海 三 三一、九五三

紐育—北支那—上海 三 一九、一〇七

紐育—上海—紐育 三 五五、二九五

紐育—上海—紐育 三 二八、七七一

紐育—上海—紐育 三 五二、七七九

紐育—上海—紐育 三 二八、七七一

紐育—上海—紐育 三 五二、七七九

紐育—上海—紐育 三 二八、七七一

紐育—上海—紐育 三 五二、七七九

紐育—上海—紐育 三 二八、七七一

紐育—上海—紐育 三 五二、七七九

紐育—上海—紐育 三 二八、七七一

紐育—上海—紐育 三 五二、七七九

紐育—上海—紐育 三 二八、七七一

紐育—上海—紐育 三 五二、七七九

紐育—上海—紐育 三 二八、七七一

紐育—上海—紐育 三 五二、七七九

紐育—上海—紐育 三 二八、七七一

紐育—上海—紐育 三 五二、七七九

紐育—上海—紐育 三 二八、七七一

即ち北米航路の大部が上海を支那に於ける中心とするこゝが分る。次には歐洲航路に就て見るに左の如く、大部は横濱を基點とし上海に寄港するものである。

國籍	船	主航	路	使用船數	總噸數
日本	郵	船	横濱—倫敦	一一	一〇六、八八三
			横濱—李浦	七	四九、六一八
			横濱—漢堡	六	四一、八八四
			横濱—漢堡	六	四五、八一〇
英國	商	船	倫敦—漢堡	一一	一一四、四一六
	彼	阿	倫敦—橫濱	一一	一〇六、三三三
			英國—浦鹽	一三	一〇六、三三三
			グレン・エンド・シヤ	一五	七六、九三九
			ベン・ライン	一五	七六、九三九
			エラーマン・ライン	八	四九、二三六
			漢堡—橫濱	八	四九、二三六
			青 筒	二五	一八七、二六六
			漢堡—橫濱	二五	一八七、二六六
			李浦—橫濱	二五	一八七、二六六

獨逸	漢	米	線	李浦—上海	五	
				漢堡—橫濱	二六	一九一、九三六
				北獨逸ロイド	一七	一〇四、一四〇
				ブレーメン—橫濱	一七	一〇四、一四〇
				ブレーメン—上海	五	四六、九四七
				リツクマース・ライン	五	二六、三三一
				漢堡—浦鹽	五	二六、三三一
佛國	エム・エム			マルセイユ—橫濱	八	一〇〇、九六九
				アントワープ—浦鹽	六	四五、二九四
伊太利	ロイド・トリエスチノ			トリエスト—橫濱	五	三三、一八九
瑞典	瑞典	東	亞	ゴッテンブルグ—浦鹽	七	四一、七六三
丁抹	東	亞		コペンハーゲン—橫濱	一〇	七五、〇九三
諾威	諾	阿	濠	線	八	四七、四三七
				オスロー—橫濱	八	四七、四三七
和蘭	和	蘭	東	亞	五	三九、九七三
				アムステルダム—浦鹽	五	三九、九七三
米國	ダラー・ライン			紐育基點世界一周	八	八七、八八八

次には沿岸航路であるが、沿岸航路の大部は上海を中心として南北に分れて居るこゝを左

の如くである。

國籍會社名線

日本日清汽船

路

隻數

總噸數

上海—廣東

路

隻數

總噸數

大阪商船

上海—天津

路

隻數

總噸數

沿岸臨時船

路

隻數

總噸數

基隆—香港

路

隻數

總噸數

高雄—廣東

路

隻數

總噸數

基隆—福州—廈門

路

隻數

總噸數

福州—天津

路

隻數

總噸數

大連—天津

路

隻數

總噸數

大連汽船

上海—青島—天津

路

隻數

總噸數

沿岸臨時船

路

隻數

總噸數

大連—天津

路

隻數

總噸數

大連—登州—龍口

路

隻數

總噸數

山下汽船

大連—上海

路

隻數

總噸數

近海郵船

南支諸線

路

隻數

總噸數

大連—基隆—高雄

路

隻數

總噸數

大連—天津

路

隻數

總噸數

朝鮮郵船

北支諸線

路

隻數

總噸數

東和汽船

南支諸線

路

隻數

總噸數

阿波共同

大連—天津

路

隻數

總噸數

北支諸線

北支諸線

路

隻數

總噸數

高橋汽船

大連—登州—龍口

路

隻數

總噸數

北支諸線

北支諸線

路

隻數

總噸數

支那招商局

上海—廣東

路

隻數

總噸數

上海—寧波

上海—寧波

路

隻數

總噸數

上海—溫州

上海—溫州

路

隻數

總噸數

上海—福州

上海—福州

路

隻數

總噸數

政記公司	上海—天津	七	一三、三一六
三北公司	上海—牛莊	三	六、〇四八
	沿岸臨時船	一	一、九四〇
	南北沿岸臨時船	二一	二四、一五四
	上海—寧波	一	二、九八七
	上海—福州	一	一、六八一
	上海—天津	三	六、二八四
	南北沿岸臨時船	六	一〇、六九四
湖南公司	南支諸線	一	一、一三一
奇元	廣東—梧州	一	二九〇
仁昌	廣東—梧州	二	九一七
紹興	香港—澳門	一	一、二二三
天成	香港—廣東	四	二、三一
成順	廣東—梧州	三	一〇、〇〇〇

二三

瑞記	同	三	一〇、〇〇〇
四邑	香港—江門	二	二、八五五
東興	上海—天津—牛莊	三	五、〇〇〇
寧紹	上海—寧波	二	五、〇〇七
支那航業	上海—廣東	一一	二六、七五一
	上海—寧波	一	二、八六六
	上海—廣東	一	二、六一六
	香港—廣東	一	一七、二〇八
	上海—天津	八	四、四六六
	上海—安東	二	九、六一五
	上海—牛莊	五	四、〇〇二
	廣東—天津	二	二〇、〇四二
	沿岸臨時船	一〇	一一、八二〇
	上海—廣東	六	七、九〇四
	上海—天津	四	
印度支那航業		四	

二三

線路名	國籍	總噸數
沿岸臨時船		二四
ドウグラス	南支諸線	一 二、二八四
香廣澳汽船	香港—廣東	三 六、四五五
捷成	香港—澳門	二 八、一四五
時昌	香港—廣東	二 三、四九八
西興	香港—梧州	二 三、九〇〇
其他六會社	廣東—梧州	三 四、〇〇〇
葡國 同安公司	香港—梧州	一 一、八〇五
	廣東—澳門	一 約五、五〇〇
		二 一、九三三
上海—漢口	日本	二八、三三二噸

即ち沿岸航路に従事する主なる汽船會社の航路は主として上海を中心とし、小會社が小型汽船を以てするものが南支方面に散在するのを見る。
 長江航路に於ても上海が中心をなして居るこゝ左の如くである。

線路名	國籍	總噸數
上海—宜昌	英國	三九、〇四九
	獨逸	三、九四五
	支那	三五、一〇九
	計	一〇六、四三五
漢口—宜昌	日本	一、八九一
	英國	一二、七一
	米國	一、〇九五
	計	一五、六九七
漢口—湘潭	日本	四、九一二
	英國	八、九四八
	支那	五、四八〇
	計	一九、三四〇
	日本	二、一七三
	英國	三、四五五
	計	二五

漢口—常德	日	計	五、六三八
宜昌—重慶	日本		八八三
	日本		四、三九四
	英國		一〇、一四六
	米國		七、二三四
	獨逸		五七七
	佛國		一、七六八
	瑞典		三九二
	支那		一二、一七〇
			三六、六八一

以上により上海を基點とするものゝ其他のものゝを比較するに、上海以外の線路に従事する汽船の總噸數六萬二千五百三十二噸なるに比して、上海を起點とするものは十二萬二千百三十二噸にして殆んど倍額を占め、其又大部が上海漢口線である。この支那の富源中支那を貫流する楊子江の水運を其出口を占めて居る上海の地理的優越性は、支那の混亂其

他に煩はさるゝこゝなき不變的なものであり且つ恒久的なものである。

2、貿易及金融

上海の地理的優越性はこゝに上海を支那貿易の中心たらしめ、上海の全支貿易の上に於ける地位は益々重大となつて來た。それは上海が長江下流を占め、廣大にして豊富なる奥地を所有し、出廻品を販路に充分恵まれて居る上に、長江中繼貿易の要點であるし、又貿易に必要な交通、金融、取引等の諸機關が完備して居るため、今日の如き發達を見たのであるが、最近是等の自然現象の外に、特に上海の價値を大ならしめたのは、混亂による内地の崩壊を不平等條約撤廢に伴ふ列國の上海中心主義である。從來列國の出方として盛んに開港場を開き汽船の航路を伸して内地に進出し、支那人の經濟的接觸面を大にして貿易の進展を計つた。然るに最近に於ける支那の戰亂、これに伴ふ土匪、共產黨の害は外人の支那奥地居住を困難ならしめただけでなく、外國軍艦による防備の不完全な開港場からは、外人は次第に撤退して逐次上海に集中し、支那人自ら上海に來つて取引を營む傾向を生ずるに至つた。又一方では不平等條約撤廢の氣運に對し、英國の如きは上海中心

主義を採り、漢口、九江、鎮江等の租界を放棄して居る。又長沙の如く絶えず共產黨に脅かされる、地方は居留民は引上げの方針を取つて居るやうな有様である。かうした他の開港場の衰頹も、相對的に上海の貿易上に於ける重要性を増大した。上海貿易が支那各港貿易の中で特に優越の地位を占めて居るのは左表によつて明かである。

(單位一千海關兩)

港別	一九二五年	一九二六年	一九二七年
大連	二七三、七〇九	三三二、〇七八	三三六、三七三
天津	二八七、七〇四	二七七、七五四	三二五、三三九
青島	一二六、二五八	一三五、六九四	一四九、四九九
漢口	二八八、七六一	二八五、一一〇	二〇〇、九五九
上海	七五四、六九六	九七二、二八七	八六八、九七八
廣東	二〇一、七二〇	二六一、六〇五	一七二、四八二
貿易總額	二、三七〇、二五九	二、六八四、四五三	二、五四三、四五六

上表は外貨の輸出入だけでなく、土貨の輸出入をも凡て含んで居る。一九二七年に於ける上海及漢口貿易の減少は北伐戰の影響によるものである。最近二年間の外國貿易に於ける上海の地位は更に増進し、殆んぎ全支輸出入額の半を占むるに至つた。

(單位一千海關兩)

港別	一九二八年	一九二九年
大連	三〇五、四〇六	三八九、〇八六
天津	一九四、六二九	一九六、四〇三
青島	六三、五六七	八二、九八三
漢口	七八、一六三	六二、六一三
上海	九一〇、八二八	九八八、六八六
廣東	一一三、四二二	一一六、八五五
貿易總額	二、一八七、三二四	二、二八一、四六六

もし滿洲を除いて支那本部だけださすれば上海の貿易額は優に半以上を占めて居る。上海に次ぐものは大連であるが、大連貿易の主體は輸出貿易にあり、滿洲特産品が其主部を

なして居る。然るに上海は輸入貿易が多く、滿洲貿易の主なる相手が日本であるのこ異つて、各國を相手として居る。

一九二六年度主要貿易港輸出入價額を國別とすれば左の如し。

輸 出	(單位一千海關兩)				
	大連	天津	上海	漢口	廣東
日本	九七、一九六	二八、七七三	四三、一一五	三、一八二	二、八六一
香港	三、一〇八	四、三三二	三七、五八五	一八	一七、九八八
米 國	八、七二八	一八、九五四	一〇五、九七三	五、六八八	八四六
英 國	一一、四六九	四、六七五	二五、二二五	四、九三一	五
印 度			一三、八三二		三三
南洋諸國	六、八二六	一五	二七、二五六		二二、六七六
ロシヤ	一一	九二	五、七七九	六七六	
獨逸	一、四八六	一、六四八	六、七九二	三、二三二	

輸 入	總額に對する百分比				
	大連	天津	上海	漢口	廣東
佛 國	三九二	八四〇	六二、六二一	二、〇七〇	七
伊 太 利	五、七二三	一八一	五、一七七	八九八	八三
其他の歐洲	九、三五〇	九七〇	七、六一二	二、七三〇	一八〇
加 奈 陀		六三	一、〇〇六		
中 南 米		二五	六八二		五〇
近東諸國	八、八二五	四	一三、四二六	六五	
濠 洲	一五	一一三	四〇七	二五	
合 計	一五六、五一四	六一、二二〇	三七五、三八七	二三、六四九	四五、五七九
總額に對する百分比	一一	七	四二	二七	五

輸 入	大連				
	天津	上海	漢口	廣東	
日 本	六二、八五八	三六、二〇一	一二六、一三八	一五、五七六	一七、四一八
香 港	五、四八八	一〇、三六五	一八、八一五	九、八六四	一二、七七九

米 國	一四、九五六	一六、八八六	一二二、七〇〇	一一、九六九	一、六九九
英 國	四、六二六	六、二八六	九八、二〇四	四、八三四	二六二
印 度	六八四	一、〇七八	六四、五二六	四、三三五	
南洋諸國	一、〇一〇	一、七五三	五六、〇六〇	三、六八七	三〇、九二八
ロシヤ	五五	九五五	二、六五五	一〇四	
獨 逸	五、一九四	四、一九九	二九、二七四	一、五九五	二、四五二
佛 國	四八〇	一、六四八	一三、七五三	二八七	四一
伊 太 利	三六一	四五二	七、三〇七	二〇七	六〇一
其他ノ歐洲	二、三七九	二六一	三五、〇七七	一、六二〇	三四一
加 奈 陀	三、二三八	九五四	一九、二五四	四九	一七
中 南 米			六、九二七	一七八	
近東諸國	七一八	二八六	二九〇		
濠 洲	六	八七	四、五二一		
合 計	一〇二、〇六七	八四、四二四	五九六、五五五	五四、三一九	六七、一七四

三二

總額に對する百分比

九 七 五二 五 六

南北支那の諸港の貿易が關係の密接な數ヶ國に偏して居るのに反して、上海貿易は著しく國際的な色彩を帯びて居る。

上海の海外貿易の上に於ける位置は上述の諸表でも明かなるやうに益々昂まりつゝありこの傾向は支那混亂の進捗と共に増進するであらう。

金融上に於ても上海が支那の中心地をなして居ることは明かである。即ち外支銀行の主なるものは上海を中心とし、又支那固有の錢業者も上海に於て最も發達して居る。先づ之を外國銀行に就て見るに、外國銀行の大部は本店を本國に有し支那に支店を有して居るが上海には何れの銀行も支店を有し、上海支店は支那各地支店の支配的地位に置かれて居るのが多い。

- (一) 上海に本店を有するもの
 - 米 國 美豐銀行
- (二) 上海のみに支店を有するもの

日本 三井銀行

三菱銀行

英國 有利銀行

和蘭 和蘭商業銀行

(三) 上海に支店を有するもの

英國 麥加利銀行

滙豐銀行

大英銀行

佛國 東方滙理銀行

米國 花旗銀行

和蘭 安達銀行

白耳義 華比銀行

日本 橫濱正金銀行

臺灣銀行

朝鮮銀行

住友銀行

支那銀行の中心も最近明かに上海に移つた。北京政府時代本店を北京に有して居た中國交通の二銀行も、其本店を上海に移し、又國民政府の中央銀行も上海に設けられた。かうして支那の三個の中央銀行が上海に根據を据へ、上海の金融的地歩が確立された外に、其他の一般商業銀行の有力なもの、中にも上海に本店を有つて居るものが少くない。例へば浙江興業銀行、四明商業儲蓄銀行、中南銀行の如きがある。又支那の舊式金融機關である錢莊も上海に於て最も大なる發達を遂げ、預金、貸附、手形發行等をなして外國貿易に重大な關係を有つて居る滙劃莊と稱する大錢莊のみにも、北市六十餘家、南市十一家、合計七十餘家ある。其資本も他の地方に比して大きく、最小四五萬元から二三十萬に至るものが少くない。かくて上海は支那の金融界を支配しつゝある。

3、工業

上海は貿易の中心地であるだけでなく、又新興工業の中心地である。支那の新しい工業は上海を中心にして居るが、工業地帯としての上海は、上海の開港場だけの狭い範囲でなく、蘇州、無錫、南通其他の上海附近の小工業地を含めた大上海を意味するものである。

支那の新しい工業が上海を中心にして居り、更に上海に集中されんとして居るのは上海が次のやうな特長を備へて居るからである。

- 一、勞銀が割合に安く且つ勞働者を得るに便である。
- 二、燃料を得るに便である。
- 三、外人工場が盛んに興りこれに刺戟された。
- 四、附近に於て工業原料を得るに容易なる。
- 五、販路が廣い。
- 六、生命財産の安全が確保されて居る。
- 七、資金を得るに便なる。

第一上海の勞銀は北支那に較べては若干高く、確實な統計がないから適確な數字を擧げることが出来ないが、これを紡績工に就て見るに左の如し。(平均賃銀を示す)

	一九二六年	一九二七年	一九二八年
天津 裕元紡	男 〇〇・四八〇 女 〇〇・三四〇	男 〇〇・四九〇 女 〇〇・三六〇	男 〇〇・五一〇 女 〇〇・四〇〇
裕大紡	男 〇〇・四四九 女 〇〇・三七九	男 〇〇・四六六 女 〇〇・三九〇	男 〇〇・四八二 女 〇〇・四〇六
上海 (一ヶ年平均)	〇・五九九	〇・六一八	〇・六四一

備考 上海の一九二八年度の分は十月までの平均とす。

これで見れば北支那に比して若干高いのは、上海の方が生活程度が高いからであるが、其差は大したことはない。これを南支那方面に比較すれば、上海の方がずっと安い。南支が賃銀が高いのは廣東方面は食糧を他に仰ぐの故、上海よりも更に生活程度が高いからである。更に上海に於ける勞働者の供給過剰は賃銀を大に低下する。上海は勞働者の供給の上にも非常に有利であつて、南北支那及長江上流からも廣く勞働者を集め得るが、又上海

附近は支那で人口の最も稠密な地方であるから、勞力は絶えず過剰を生じ、何時でも需要を俟つて居る有様である。殊に女工を得らるゝ點では北支那よりも有利である。北支那地方は女が單獨に家庭を離るゝことは習慣上許されないため、女工の供給は工場附近に限らるゝが、上海附近では遠方から女工が單獨に出て寄宿舎に收容することも出来るため、紡績の如き製糸工場の如き多くの女工を使用して居る。天津の紡績では僅かに一割位の女工を使用して居るに過ぎない。更に上海自身が三百萬近くの人口を擁して居るために、勞力の一大供給地であり、工業に必要な勞力を得ることは非常に容易であつて、寧ろ絶えず過剰に苦しんで居る有様である。

第二は燃料を得ることが容易である。上海附近には石炭を産しないけれども、上海は交通の要路にあるために、支那各地又は外國から石炭の供給を仰ぐことは極めて容易である。鐵路山東方面から來るもの、海路開灤、撫順炭が運ばれ、日本からも容易に有つて來れる。この點は天津方面程便ではないが、南支那や漢口等に比較しては甚だ有利な立場にある。殊に支那の鐵道は不通になることが多く、石炭の供給は海路に仰ぐことが少くない

がこの際上海は航路の便があるために他の地方見たやうに困ることはない。

第三には外人工場の勃興による刺戟である。支那人工場が近年盛んになつた一つの原因は、確かに外人工場の刺戟である。外人工場が設けられるれば、これに倣ふて支那人工場が計劃さるゝのは極めて自然である。然も外人工場の設置により、支那人は外人工場で訓練された職工を雇入れ、勞せずして工場を興し得るために、資本技術に大した力を要しない工業から先づ興り、各種の工業に及び、且つ外人工場に伴つて支那人工場の技術も進歩するに至つた。

第四は上海が附近に豊富なる工業原料を有つて居ることである。このことは支那では特に必要である。それは戰亂のため交通機關が阻碍を受けて遠方からの原料供給は不確實になる場合が多く、又厘金及これに類似の通過税が多いために、原料を遠距離に運出しても不引合に終ることが少くない。従つて附近に原料の供給地を有つことは、原料の供給を確實容易にするために必要である。然るにこの點では上海は甚だ恵まれて居るやうに思ふ。上海は支那で最も豊沃な長江下流平野の中心にあり、附近には江蘇、浙江、安徽、江西の物

資が集散するが、特に棉花及繭の生産地であるため、紡績及生糸の原料が豊富であり、其他の農産物も盛んであるから、これを原料とする工業を興すに有利である。今主要原料の生産高を統計に就て見るに左の如し。

各省綿花生産數量 (華商紗廠聯合會調查)

單位擔

北支那	一九二三年	一九二四年	一九二五年
直隸	九四四、九七三	七九三、五七五	九五八、二九〇
山東	一、三八七、六六六	九二二、六一〇	七三八、〇八八
山西	二三〇、六八一	一六一、五〇二	一六一、三〇二
河南	六六七、五二二	五九四、九三九	八〇三、一六七
陝西	四六一、九五〇	四六七、八八八	七七二、〇一五
長江下流			
江蘇	一、四八九、〇八四	二、九四八、七一六	二、一二三、〇七六
浙江	三二九、九六〇	四八九、六二八	三九一、七〇三

安徽	一八九、五一五	一五三、四七二	一七六、四九二
江西	一七一、五三六	一五四、四〇六	一六九、八四六

長江上流

湖北	一、一四四、六三七	一、一一九、三二六	一、〇〇七、三九四
合計	七、〇一七、五一四	七、八〇六、〇六二	七、五七七、五七二

即ち上海附近が棉花の最も大なる生産地であり、江蘇だけでも時により全國産額の半近くを占めて居る。左に數年間に亘り支那棉花全産額と江蘇省の産額とを比較して見やう。

年次	江蘇省産額	支那全産額
一九一八	四、一二八、六九六	一〇、二二〇、八〇九
一九一九	二、七六三、一六〇	九、三〇七、三九〇
一九二〇	三、〇二二、二一〇	六、七五〇、四〇三
一九二一	一、二八三、六六〇	五、四三八、二二〇
一九二二	二、四四六、六五〇	八、三一〇、三五五
一九二三	一、四八九、〇八四	七、〇一七、五一四

一九二四	二、九四八、七一六	七、八〇六、〇六二
一九二五	二、一二三、〇七六	七、五七七、五七二
一九二六	一、八五〇、六六二	五、六八〇、〇〇〇

四二

備考 一九二六年度の全産額には豫想高を含んで居る。

次には生糸の原料たる繭の生産額に就て見るに江蘇、浙江は全國産額の約半數を占めて居ることは次の統計によつて明かである。

省名	各省繭推定産額	
	邦人調査	外人調査
浙江	一、二四〇、〇〇〇擔	一、〇一七、〇〇〇擔
江蘇	五四五、〇〇〇	三五〇、〇〇〇
安徽	九七、一〇〇	三〇、〇〇〇
湖北	一二二、九〇〇	一〇二、〇〇〇
湖南	—	二五、〇〇〇
河南	四二、九〇〇	一四二、〇〇〇

省名	邦人調査	外人調査
山東	一一〇、〇〇〇	四五、〇〇〇
山西	六、五〇〇	—
四川	四六八、〇〇〇	三一七、〇〇〇
福建	三、九〇〇	—
廣東	一、〇五七、四〇〇	七一七、〇〇〇
廣西	五五、六〇〇	—
其他	一三、〇〇〇	七二、〇〇〇
計	三、六六二、三〇〇	二、八一七、〇〇〇

かうして上海は主要工業の原料が附近で豊富に充され得る。又鑛産物に於ては楊子江岸に近く、湖北の大冶を始め安徽、江蘇の諸省に鐵鑛及セメントの原料である石灰を産する。第五は上海は廣大なる販路を有つて居る。上海自身が三百萬の人口を有する一大需用地であるのみ、上海人の生活は近年益々向上して其購買力が増大しつゝあること、及支那の混亂の結果は、地方居住者の生命財産の安全を著しく危険に陥らしめ、各地富豪は争ふて上海に移住し、ために上海人口の増加と購買力の増進とを來す。又上海附近は長江下流の

人口稠密にして土地の豊沃な所であるから、他の地方に較べては購買力も多い譯である。今各省人口密度を一方哩に就いて見るに左の如し。

省名	人口密度	省名	人口密度
江蘇	八七五	直隸	二九五
浙江	六〇一	河南	四五四
安徽	三六二	山西	一三四
江西	三五二	山東	五五二
湖南	三四一	陝西	一二五
湖北	三八一	甘肅	四七
四川	二二八	滿洲	六一
福建	二八四	雲南	六七
廣西	一五九	貴州	一六七
廣東	三九二		

從て其人口も江蘇、浙江、安徽の三省のみを以てしても一億に近く、海關の調査によれば三省人口の合計九千八十五萬二千人、又一九二三年の郵政局調査にあれば、七千五百六十六萬二千九百人であるが、他の地方に比し生産購買力共に大なるため、支那全國の購買力の四分の一以上を占めて居るであらうし、上海港の商勢力範圍は尙三省以外にも伸びて居るだけに、上海の有つ販路は極めて大である。

第六は工業資本の問題である。最近支那に於ける工業の資本も逐次増加して來たが、工業を起すための資本を得ることは、支那に於ては一般に困難であるに拘らず、上海は支那金融界の中心であるのこ、支那各地の富豪が生命財産の安全を求めて上海に移住するものが多いのこ、其他の都市では固定資本の投資に躊躇するものも、上海だけは安全を見てこゝに投資するために、上海は割合に資金を得るに便である。外人の如きも奥地の投資を漸次引揚げて海岸の主要港殊に上海に集中しつゝ、ある有様である。

第七は上海が外人の保護下にあつて、生命財産の安全が確保され、營業居住の安固が確固にされて居ることである。工場が設けらるゝ場合に最も必要なことは、工場が安全に營業し得ることである。然るに支那には之を脅かす幾多の素因がある。その一つは戦亂によ

り工場附近の治安秩序が紊され、或は工場が破壊さるゝことである。これに對しては上海が戰場になる虞れは先づ無いものにして安全だ云ひ得る。次には共産黨に脅かさるゝかきうかで、今長江一帯には共産黨の農民軍が盛んに跋扈しては居るが、上海や武漢の如き大開港場に手を着けることは難しいだらうし、殊に上海が共産黨に攻略さるゝことは今の所考へ得られない。次には戦争が無くても、軍備のため絶えず軍用金を申付けられたり、苛税を取立てられたり、或は交通が阻碍されて原料又は製品の運搬に困つたり、途中で高い通過税を課せられて製品が不引合ひになつたりすることが多いが、この點でも上海には外國租界があり、租界外の土地も租界に準じてかうした無法を受けることが少い。以上のやうな支那で工業を興す場合に一般に附隨して起る不安は大體上海ではこれを防ぎ止めることが出来る。次に上海の有つ利益は、他の開港場が不平等條約撤廢運動のため逐次動搖しつゝあるに拘らず、上海だけは之の動搖の圏外にあることである。英國の如きも他の租界は逐次放棄しつゝあるが、上海だけは如何なることがあつても確保する考へらしく、治外法權の撤廢に於ても上海を除外例とする意圖を有つて居る云はれて居る。米國も亦上海

放棄の意圖なきことは明かである。又支那側から見ても、現國民政府の首腦者は上海の土地建物に莫大な投資をして居る關係から見ても、上海租界の返還を迫ることは急にあり得べしと思はれず、他の租界が不平等條約の波に揺られて不安動搖の兆に呈して居るに拘らず、上海はこの虞れから超然として居る。従て他の開港場に投資を躊躇する外支人も、上海には安心して投資するため、最近他の地方に於ける工業が振はざるに拘らず、上海に於ける工場は増加しつゝある。今後かうした傾向は益々増進するであらう。

次に上海に於ける工業集中の狀況を調べて見やう。現在支那工業の中心をなすものは綿工業であるが、綿工業は上海を中心として各地に散在して居る。今紡績工場の地方的散布状態を見るに左の如し。(一九二八年末現在)

支那人工場	鐘	數	織機臺數
上海	七二六、三八八		七、三九四
上海附近	四八三、四九六		三、四二六
天津及附近	二八二、四六〇		一、八六〇

武	漢	二六二、〇九六	二、八七八
河	南	一〇六、二八〇	二〇〇
浙	江	五八、一二〇	二二五
山	東	五八、〇〇〇	
安	徽	一五、二〇〇	
湖	南	四〇、〇〇〇	三〇〇
山	西	一九、六四五	
江	西	二五、三六〇	
英人工場	上海	一五三、三二〇	一、九〇〇
日本人工場	上海	一、〇一〇、〇〇〇	八、三五六
青	島	二五八、二八〇	一、七三六
漢	口	二四、八一六	三〇〇

四八

尙外支人工場を合計するに左の如し。

地方	錘	織
上海附近	一、八八九、七〇八	一七、六五〇
計 (大上海區域)	四八三、四九六	三、四二六
天津及附近	二、三七三、二〇四	二一、〇七六
武漢	二八二、四六〇	一、八六〇
河南	二八六、九一二	三、一七八
山東(青島)	一〇六、二八〇	二〇〇
浙江	三一六、二八〇	一、七三六
安徽	五八、一二〇	二二五
湖南	一五、二〇〇	
山西	四〇、〇〇〇	三〇〇
江西	一九、六四五	
江西	二五、三六〇	

四九

計

三、五二三、六六四

二八、五七五

五〇

即ち紡績錘數に於て上海は全國の約五割三分を占め、大上海區域に於ては全國の約七割弱に當る。又織械に於ては、上海だけで全國の六割強、大上海地域に於ては八割弱である。これを見ても上海の支那紡績界に於ける勢力を知ることが出来る。

次に製糸工場に於ては上海の位置は左の如く廣東と並んで支那の二大生産地となつて居る。(一九二八年現在)

省名	工場數	釜數	一ヶ年生産高
江蘇	一三八	三四、八一	四八、七三七
浙江	二〇	四、五二二	六、三三一
四川	一	一二、四三二	六、五〇〇
山東	一	七、五〇〇	三、七〇〇
湖北	三	六〇〇	七九〇
廣東	一四二	六九、三一五	六四、三三三

江蘇に於ける工場分配の狀況左の如し。

工場名	工場數	釜數
上海	九四	二二、七九八
無錫	三八	一〇、四七八
其他	二四	五、六一〇
計	一五六	三八、八八六

製油工業も支那本部に於ては左の如く上海は優秀の地位にある。(一九二八年末現在、チヤイナ・エコノミック・ジャーナルに據る)

工場名	工場數
江蘇 上海	二四
其他	一六
山東 青島	二〇
其他	七
天津	一一

武漢 二六
其他 七
計 一一一

五二

機械製粉工場の状況は左の如し。(一九二八年末現在、チャイナ・エコノミック・ヂャーナ
ルに據る)

工場數	生産能力(一晝夜)
江蘇 上海 一七	二四、一五〇 ^貸
江蘇 其他 二四	九、〇〇〇
湖北 漢口 九	四、四〇〇
湖北 其他 一	一二五
山東 濟南 一二	八、三五〇
山東 其他 六	三、〇〇〇
直隸 天津 七	七、二五〇
直隸 其他 八	二、一一五
其他の諸省 一五	二、五二〇
計 九八	六〇、九一〇

以上は支那本部だけであるが、大上海區域に於ては、工場數全國の五分の二、生産能力は半以上を占めて居ることが分る。

又煙草工場に於ても上海は絶對優越の地位を占め主要工場のみにて左の如し。

工場數	一日生産高
上海 一五	四、二三〇 ^兩
天津 四	不明
漢口 四	同
香港廣東 五	同

又最近發達せる電氣工業に就て見るに發電力の分明せる工場のみにて左の如し。

省名	事業者數	發電容量
江蘇	六一	一六〇、六四六 ^基

五三

浙	江	安	江	湖	湖	四	直	山	山	河	福	廣	廣	雲
江	徽	西	北	南	川	隸	東	西	南	南	建	東	西	南
三四	五	六	一二	七	三	二二	二二	一二	七	七	一三	一六	四	二
四、三八四	九〇八	八二五	一九、七〇六	二、九九一	一、五一二	二四、一八二	八、三七二	六二三	八七〇	三、七〇〇	九、四七〇	二七〇	六七五	
五四														

香港及澳門	三	一九、九二〇
東三省	三一	五七、二三三
計	二四五	三一六、二八七

發電容量に於ては全國の半を占めて居ることが分る。

其他主要工場で上海附近に集中せず、全國に普遍的に散在するものには燐寸工場がある。又原料の關係から主として他の地方に發達して居るものにはセメント及製鐵業等がある。然し大體に見て主要工業の主力は上海にあることが分る。製糖、製紙の如きも上海に興りつゝある將來ある工業の一つである。其他上海に最近著しく發達しつゝあるのは雜貨工業である。この種工業は個々の工場としては小さいものであるが、其種類が多く工場數も多數に上るので決して輕視すべからざるものである。例へば洋傘の如き從來日本其他から輸入して居たのが、最近上海及浙江方面に製造業者が現はれ、上海には稍々大なる工場十九あり、一日の産額七百打以上を算するに至つた。又セルロイド製品も大部日本から輸入して居たのが、最近上海に一二の製造工場が現はれて來た。メリヤス工場も上海を中心とし

て發達し、民國五六年頃は僅かに四五軒に過ぎなかつたのが、民國十五年には五十餘軒となり、民國十八年四月末には百三十軒内外となつた。是等の工場には最近電織機を備付くるもの増加し、其工場數三十九にして其所有臺數全部の三分の一に及んで居る。然るに上海以外に電織機を有するは支那全國に十一工場に過ぎず、其織機臺數の總數は上海に於ける大工場一軒の所有機數と同じである。石鹼製造も最近發達し、大なる工場七、小なるもの二十軒あり洗濯石鹼の外に化粧石鹼をも製造するに至つた。琺瑯鐵器も全く外國からの輸入によつて居たのが、上海、天津、漢口等に支那人工場が設けられた。天津、漢口のものは殆んど物にならず、たゞ上海にある數個の工場製品はさうにか輸入品に對抗し、揚子江一帶に販路を擴げつゝある。上海にある工場數は十一である。其他ゴム製品工業も新たに上海に興りつゝある工業の一つであつて、オーバシユースの如き日本からの輸入品に對抗して居る。上海にかうした雜工業が發達したのは、日貨排斥、國貨提唱の運動によることが少くない。上海は絶えず支那工場の尖端を行つて居ることを云つても宜い。

上海は附近に原料を有する有利な工業を發達させただけでなく、北支那或は其他の部分に特有な工業をも上海に奪ひつゝある。例へば牧畜は北支那特有だが、畜産物を原料とする製革、絨氈業の如きも、逐次上海に移轉しつゝあるが如き傾向を示し、絨氈業は北京、天津に特有のものであつたが、上海にも絨氈業が興つて工場七八個を算し漸次發達の形勢にある。従て將來上海が工業地帯として益々全國の中心となり、ここに各種の工場を集中せしむる趨勢にあるは看取するに難くない。

三、上海の政治上の地位

上海が政治上に有つて居る力は其經濟力にある。上海は政府の財源として必要なものであり、又支那資本勢力の中心地として隱然たる力を有つて居る。そこで上海の政治上の地位を明かにするためには、この二つの方面から説明を加へなければならぬ。

1、財源としての上海

南京政府が全國反蔣運動の中にあつて、能く今日まで其地位を保つて來たのは上海を保つて居るからである。然して財源としての上海の價值は最近益々向上して來たのは次の

やうな理由によるのである。

始め袁世凱時代には、外人管理の關稅は主として内外債の擔保に充て、外人監督の鹽稅は一部を債務の擔保に、他は政費に充て、居た。この二つの財源を外人の力を借りて確保した外に、袁世凱は其中央集權實現の手段として財源の中央集中を企て、煙酒稅、印花稅の如き主要なるものは中央から直接の徵稅機關を地方に設けて徵收を行つた。其他若干の主要なる稅目を指定して中央稅とし、地方の徵稅機關で徵收して中央に送ることをした。

然るに袁死し中央の威力が漸次減退するに従ひ、この財政の中央集權制は破れ、第一に地方徵稅機關で徵收して中央に送つて居た分を地方で押へて送らなくなつた。始めは支那十五省位から送つて來て居たのが、十三省になり十二省になり八省になり五省、三省になつて、後には殆んぎ中央政府所在の省だけが満足に送るだけになつた。これは現在に於ても同じである。次に地方軍閥は中央政府直屬の徵稅機關で徵收して居た煙酒稅、印花稅等に手を着け、これも殆んぎ這入らなくなり、次には外人監督の鹽稅に手を着け始めた。鹽稅收入の剩餘は始め三四千萬元あり、北京政府時代には中央の主要財源となつたが、これも

間もなく軍閥の分割が始まり、中央の純收入は三千萬元となり二千萬元となり一千萬元以下となり、北京政府没落前には殆んぎ駄目になつた。この財源の涸渴が北京政府没落の大原因となつたのである。かうなる跡に残るのは關稅だけになるが、これは外人の管理下にあるために軍閥の分割を免れた。從て南京政府になつては關稅が唯一の財源となり、他は殆んぎ云ふに足るものはなかつた。然るに關稅は内外債の擔保になつて居るので、關稅增收の必要が起り、これに二分五厘の附加稅を課し、其增收を擔保に蔣介石は約一億萬元の内債を募集し得て北伐軍費をしたことが彼れが北伐に成功した所以である。其後に於ても關稅增收を擔保に内債を募集して南京政府を維持して來た。關稅は其後一九二九年の二月に更に一度引上げたが、是等の增收を擔保に今日まで國民政府が募集した内債は五億萬元以上に達して居る。これで國民政府はこゝ三年來の軍政費を支へて來たのである。然るに關稅增收も漸く擔保切れの形となつたので、今度は關稅自主による國定稅率實施により更に收入を増加し、これにより内債募集の餘力を得んぎして居る。然るにこの外人の關稅管理も次第に崩壞の運命にある。それは各軍閥が軍費捻出の必要から海關をも分割せん

こする氣勢を示し來つたからである。先頃天津海關は北方政府の手に握られたが、次で奉天派に引渡された。一方では支那人の海關行政回収の運動があり、總稅務司の權限は次第に弱めらるゝと共に、支那人の海關内に於ける勢力は増大して來た。從て外人の海關管理も早晚崩壞の運命にあると共に、海關收入も亦各地に分割さるゝに至るであらう。その場合に於て政治上最も有利な立場に立つものは海關收入の最大なる上海を保有するものである。支那政府の勢力圏の大小は、其集め得る財力の大小によるものにして、支那の軍閥に軍費を貰つて居る間は服従し、金の切れ目が縁の切れ目となる。從て中央政府に多くの金が集れば其勢力圏が擴がり、金が少くなれば縮まつて來る。南京政府は三年間に五六億の金を費つてあれだけの勢力圏を維持して來た。今後の政府維持も金の集まりやうである。從つて關稅管理が壞れて關稅が各地方に分割さるゝことになれば、政治的には中央集權が壞れて地方分權に向ふことになる。その場合も經濟的に力の大なる地方が最も大なる力を有つ。

元來經濟的に力の貧弱な北京政府が何故に支那を支配して來たか云ふに、開港場見たやうに經濟中心が發生しない以前は、武力に於て優つて居る北方が能く南方を制し得たのであるが、民國以後北方が南方を制して來たのは、外人の管理監督により北方政府に關稅鹽稅收入の三つを集めて呉れたからである。然るに支那の混亂はこの制度を打壞し、鐵道收入及鹽稅は各地軍閥に分割されたため、北方は經濟的に優勢なる南方に制せらるゝに至つた。今回反蔣派が戰爭に負けたのも、南方の財力と北方財力との優劣に基く所が多い。上海が海關收入の上にぎれだけの力を有つて居るかを知るために、左に支那海關收入の統計を舉げて見やう。

一九二九年度各海關收入表（單位千海關兩）

	海關收入額	百分比
上海	六九、四四二	四五・四四
天津	一五、二八四	一〇・〇〇
大連	一二、八三七	八・四〇
漢口	八、二六三	五・四一
		六一

青島	六、六七一	六二
廣東	六、一二一	四・三六
ハルビン	三、二〇二	四・〇一
安東	三、七九一	二・一〇
汕頭	二、九二八	二・四八
		一・九二

即ち上海の海關收入は稅率の増加により著しく増大し、以前に於ける全國の收入に匹敵するに至つた。即ち最近數年間に於ける支那海關收入の總計左の如し。(單位千海關兩)

年次	收入總高
一九二五	七〇、七二五
一九二六	八〇、四三五
一九二七	六八、七八一
一九二八	八二、五三三
一九二九	一五二、八三〇

更に全國海關收入の中に於ける上海海關收入の比率は、殆んゞ半數を占むるに至つたがこの比率も亦増加の傾向にある。即ち一九二七年には上海海關收入は全國收入の三十七パーセント強であつたのが、一九二九年には四十五パーセントとなり、かくて相對的にも上海の地位は向上して來た。其結果上海は財政的に如何なる地位を獲得したか、上海に於ける海關收入を擔保しただけでもかなりの募債力があるし、又上海には金融機關が整備し金融界の中心として、資産家が多く集まつて居る關係から、上海の財界に於ける力は動かすべからざるものである。廣東を財源とした廣東政府が、僅か廣東一省を勢力範圍としてさえ數年にして廣東の財政は窮迫の極に達した。又武漢政府一ヶ年の經費のため武漢の財政は涸竭した。然るに上海は南京政府を支ふるこゝ三年にして尙綽々たる餘裕を存じて居る。

上海のかゝる財的に有つて居る力は、天下の覇權を爭ふ軍閥魅惑的のこゝなり、今後の政争には上海の争奪戦が烈しくなるだらう。これ上海を得たものが天下の覇者たり得るからである。今の南京政府も上海を切り離されたら忽ち存立の力を失ふだらう。最近軍閥の争

闘は多く開港場を覘つて行はれた。山西派が天津を、馮玉祥が山東を覘つた如き將にこれである。殊に上海の爭奪が政權の奪取を左右する力を有つに至つては、凡てのものは上海を覘ふのは當然である。今回の反蔣運動にも、北方政府樹立が成立する機會は二つしかなかつた。一つは東三省が反蔣派に加はるこゝであり、一つは北方派が上海を其手に入るこゝであつた。今日支那で上海の富に對抗し得るものは東三省の富あるのみである。従て支那本部では上海の財力を保有するものは中原に覇たり得るが、それだけ又上海は政權爭奪の主目標となる。

2、資本閥の發生と政治的關係

次には上海に發生しつゝある財閥と其政治上の影響に就いて述べなければならぬ。上海に於ける浙江、廣東、江蘇等の財閥の發生は支那の政局の上に一變化を與へた。從來の支那の爭鬪が軍閥の地盤争ひであつて、軍費の出所としては單に商民の誅求により或は一部金融業者を利用して居たのが、こゝに一の資産階級の團體を生じ、この資本團と一の軍閥とが結託して他に當るに至つた。而して資本閥の發生は浙江軍閥の組織する國民政府により團體的發生を遂げ、國民政府は又財閥の援助により其政權を維持し、相互の依存的關係は益々密接を加へて來た。そこで少しく財閥の發生と其内容に就て述べ、次に政治的關係に及ぼして見たいと思ふ。

支那に於ける資本家が外國のやうに統制された一大資本家にならずして、財閥と云ふ形を取つたのは、支那の國情に基くものであつて、支那の凡ての社會の組織は獨立した小團體の集團からなつて居る。政治組織に於ても同様である。又財閥が特に上海にのみ發生したのは上海が上述のやうな經濟上の好條件を備へて居る外に、中央政府が南京に移轉して來たからである。

浙江財閥と云ふ名は世間に喧傳されて居るが、その内容意義には種々あり、最も狹義に解釋するものは浙江出身資本家の團體たる財閥を意味し、少しく廣範圍に解釋するものは浙江財閥を中心とし其傘下にある各財閥を含めたものであり、最も廣範圍に解釋したものは支那資本閥の總稱に用ひて居る。然して今日ではこの最後の解釋も必ずしも不當ではないやうになつた。これ浙江財閥は上海財界の樞軸たる金融界を牛耳つて居るからである。

浙江財閥は支那新式銀行の中樞をなす中央、中國、交通の三銀行を始め、四明、浙江興業、浙江實業、中華商業、勸業、勸工、中國通商、正大等の諸銀行並に中央、通易の二信託公司を其手中に收め、更に上海金融界に於て新式銀行と相對立する錢莊界に於ても、浙江人の經營にかゝるもの過半數を占め、其他の他省人の資本になるものも、支配人以下全従業員の一部は浙江人である。かうして浙江系が上海金融界の中心を攫んで居るために、他の財閥は其援助なくては何事も出来ないから、自然これに連絡を求め、太陽を繞る諸星のやうな關係になる。

上海財界に於て浙江財閥に次いで勢力あるものは廣東財閥であつて、銀行界に於ても香港國民、廣東、東亞、和豐、工商の各行を有し、百貨店は其獨占だし、煙草製造に於ても新生面を拓き、又石炭、生糸、茶、南北貨品、洋雜貨等に根底を張つて來たが、然し是等の諸事業の經營には浙江人に握られて居る金融界の後援を必要とし、浙江系實業家との提携連絡を必要とする。又廣東、汕頭、潮州人で資力のあるものが錢莊業に投資して居るのが少くないが、是等は概ね浙江人と合資で經營するか、或は浙江人を支配人以下の要職に

採用して浙江系との連絡を取つて居る有様である。廣東財閥に次いで上海財界に勢力のあるのは上海人財閥及江蘇財閥であるが、これにて廣東財閥と同じく浙江財閥の直接間接の援助を受け、これと提携連絡して居る。其他の各省出身者資本家に至つては勿論である。かうして上海財界は浙江系の傘下に歸し、上海財界が全國を支配して居る關係から浙江財閥が支那資本閥を形成するに至つた。

浙江財閥の發生は金融界の發達に伴ふて居る。上海が開港された當時の金融機關は山西票號であつて、山西人により金融の機關が握られて居た。然るに間もなく新式銀行及錢莊が發生して之に代り、票號は勢力を失墜した。この錢莊界に於て勢力を有して居たのは始め浙江、江蘇二省人であつたが、其後の恐慌で江蘇系は没落し、浙江系が獨り勢力を占むるに至つた。新式銀行界に於ける浙江人の勢力は清末から民國の始めにかけては微々たるものであつたが、民國になつて俄かに其勢力を増大した。これ浙江人にして有力なる財界の指導者が現はれたのこゝ、浙江系金融界の有力者が共存共榮の見地から大同團結して其力量を集結し、次ぎ次ぎに現はるゝ大軍閥と巧に勾結して來たからである。かくて始め江蘇

人に握られて居た中國、交通の諸銀行も逐次浙江人の手に移り、最近創設された國民政府の國家銀行たる中央銀行も勿論浙江系の手に入り、この三特殊銀行が浙江財閥活動の中樞をなして居る。この銀行と錢莊とは一體となつて上海の金融界を壟斷し、浙江系の軍閥官僚と結托して其地位を堅め、更に各種の方面に手を伸して上海の事業界に網の目を張つて一つの大勢力を造り上げて居る。

即ち上海の實業界に於て、石炭、染料、銅、錫、金物、木材、航運、機械、建築、海産物、人參、洋紙、南北雜貨（支那產乾物食料品）等は殆んど浙江出身者に獨占された形であり、又茶、外國雜貨、生糸、吳服、綿布、綿糸、砂糖、雜穀、油脂、陶磁器、鐵等も浙江人が多數を占めて居る。たゞ紡績業では浙江人の經營するものは三四工場に過ぎないが、各紡績の金融は多くこれを浙江人の經營する銀行、錢莊に仰いで居る。

浙江財閥は是等財界の地位を利用して上海商人の團體である上海總商會の實權を握つて來たが、最近各種商人團體が解散されて上海商人團體整理委員會となるや、他財系の有力者は多く驅逐され、浙江系の手により上海實業團體の統一機關が統整さるゝに至り、この

方面の勢力も大に増大した。

更に浙江財閥が國民政府と結托して内債引受けを壟斷するに至つたのは、浙江軍閥の頭目蔣介石が政權を握つたからで、蔣が武漢政府と離れて南京政府を樹立する際に、蔣を助けて之れを成功させたのは浙江財閥の頭目張靜江であつた。かくて南京政府成立後其財政は主として海關二分五分增收を擔保する内債によつたものであるが、その引受けは主として浙江財閥によつて行はれた。その代りに浙江財閥銀行に對しては特別割引其他の利益を與ふると共に、其償還基金の保管のため江海關二五附稅國庫券基金保管委員會なるものを設け、この委員會は浙江系財閥の有力者により支配されて居る。實はこの委員會の設立が委員會主任で浙江財閥の中心人物李馥蓀の建築によつたものである。かくて其後の内債は凡てこの保管委員會の管理下に置かれ、その結果國民政府の内債は浙江財閥の一手引受けとなり、浙江財閥は其基金保管の全權を得て相互利用の關係が鞏固にされ、更に進んで浙江財閥系の人物を財政に關係ある各種機關の首腦者に据へて浙江財閥による財界壟斷の勢ひは益々進展して行つた。

然らば浙江財閥の將來はさうなるか、これには二つの問題がある。一つは浙江財閥中心の支那財閥は今後も長く存続するものであるか否うか、一つは浙江財閥が崩壊した場合にも上海には一つの財閥が存続して成長を続け得るや否やである。第一の問題を解決するには浙江財閥の素質を能く吟味して見なければならぬ。浙江財閥は我が三井、三菱等と異つて多數の小資本家の集團であつて、中央集權的に一の機關により統制されて居るものではないから、一度内部的に利害相反した問題が起れば、その統制は付かなくなつて、分裂に陥る虞れがある。又浙江財閥の中心は金融業にあり、新式銀行の中樞をなすものは中國、交通、中央の三特殊銀行であるが、これは政府の支配下にあるから、もし現在の蒋介石一派の浙江軍閥が失脚して他の軍閥が政權を握つた場合、果してこの三行を浙江財閥の手に自由に支配し得るか否うか、もし他の系統の手に歸した場合には、先づ浙江財閥の牙城にヒッが入る。更に蒋介石政府と結托してかち得た財政上の樞要なる位置を逐はれ、又内債償還基金保管委員會でも打ち壊されやうものなら、損害の大部は浙江系が背負ひ込まねばならず、浙江財閥に取つては大打撃である。それだから浙江財閥は蒋介石政府の存続を希望

して援助するし、蔣は其間の消息を知つて浙江財閥を巧く利用し、今では一種の腐れ縁になつて居る。然し根本を洗つて見れば双方共に自己の利益を根據として互に利用し合つて居るに過ぎないから、必ずしも最後まで終始する氣はなく、蒋介石政府が没落した場合に、浙江財閥が新しい政權と結托を試みることは容易に首肯し得る。又新しく政權を得たものも、浙江財閥を疎外しては財政の基礎が立たないとなれば、兩者の妥協融合は充分に行はれ得る公算はあるが、然し今日の如く調和を取ることが困難であり、或は浙江財閥に取つて極めて不利な事態が出現することも豫期しなければならぬ。

第二は浙江財閥が指導者的地位を失つた場合にも、依然として支那の資本閥は一つの集團としての結束を保つて成長し得るか否うかである。この點に就いては種々な方面から之を探查して見なければ分らない。第一上海が支那財界の中心地としての位置は將來も變ることはないだらうし、或は益々高まりつゝある現狀である。そこで次には上海財界勢力の組織問題である。支那財閥の組織は支那の社會組織に特色付けられて居る。即ち前にも述べたやうに一大個人資本家に集結さるゝことなく、小資本家の集團から成つて居ること、

並に其集團は同郷團體であることである。浙江財閥、廣東財閥、江蘇財閥と云ふが如きことである。將來もこの方式には急激な變化は來ないだらう。支那の資本閥は未だ發達の初期にある。從て軍閥政客と結托して其成長を助けて行く、從て政局の變化は資本閥の將來には大きな關係を有つて居る。中央政府が北京にあるか南京にあるか、如何なる派が政權を握るかにより、各財閥の間に盛衰を來すであらう。其結果は今日のやうに一財閥が中心となつて他を率ゐるやうな形は出來ないで、各財閥聯立の形となり、或は今日のやうな統制あるものではなくなるかも知れない。然し何等かの形で上海資産階級の勢力が政治の上に強く作用して來ることだけは否定出來ないだらうし、又郷土的資本閥が存続することも確かであらう。

支那は外人資本主義の影響を受け、資本主義の發達を促されながらも、軍閥官僚階級の誅求に遭ふて發達を阻害されて居る。たゞ長江流域殊に上海を中心に資本主義が芽生えつゝある。それが浙江財閥を中心とする支那財閥である。從てこれが巧く成長するか否かは支那の經濟政治双方に大なる關係を有つて居る。この上海資本閥の發生は今日までも支那

の政治には大なる影響を及ぼして來た。武漢政府が共產黨的な施設により資本家に大恐懼を與ふるや、上海の資本家は共產黨勢力の海上に波及し來るを恐れ、こゝに蒋介石を助けて南京政府を樹立させ、其代償として共產黨に對して大彈壓を加へしめた。この問題では上海の財閥だけでなく、浙江財閥の傍系たる廣東財閥も亦利害を一にする。これ廣東に共產派又は國民黨左派が出現することは彼等の大に喜ばざる所である。從て右派の蒋介石政府を助くることには彼等の希望は一致し、又廣東財閥と同じ考へが英國にもある。香港を有つて居る英國としては、反英的な共產黨や國民黨左派の出現は大禁物である。こゝに支那財閥と英國との協同が成立つた。かうして共產黨は峻嚴なる彈壓を受くるに共に、財閥の北伐及國民政府支持の代償として、國民政府の政策は漸次右傾し、共產黨のみならず、國民黨左派も亦壓迫され、一九二九年三月の第三次國民黨全國代表大會の結果は、左派は中央執行委員として僅かに二名を剩すに過ぎず、右派全盛となり、中央黨部の部長は右派で獨占し、左派の勢力に根本的打撃を加ふるため左派下級幹部が據つて居るに衆運動を制し、勞働組合、農民組合學生會等を解散して有名無實の國民黨系の組合を組織し、階級

争闘の理論を否認して勞資協調主義を採り、更に進んで國內産業の保護政策を採用するに至らしめた。今後に於ても國民政府の政策は益々右傾し、資本主義の影響を蒙ることが大きくなるだらう。然し現在の政府が倒れて左派或は共産黨が飛出せば是等の關係は變つて來るだらうが、然し如何なる政黨も南京に都し上海により食つて行くことになれば、其政策は右傾するここを免れないだらう。ここに上海の力が作用する。如何なる政府が生れても上海を確實に握つて居ることは必要であつて、上海の魅力は政權を其近くに引き付けて置く。

要するに大上海の政治上に有つ力は極めて偉大であつて、上海の財力を有つものはここに中央集權を企て、武力統一を試みる。もし上海のやうな大開港場がなければ、如何なる軍閥も單獨で全國を制するだけの力はない。即ち大上海の存在は中央集權の誘惑物となりかゝる夢想病者を産出するに至るものである。又一方から云へばかゝる大都市の存在は支那の混亂を長からしむる。従來支那の混亂に際しては財源を農村に取り、農村の涸渇により戰亂は終局に近づいたが、今日では軍資兵器を開港場に求め、ために戰亂は永引くに至つた。この意味から見て、上海が何時まで軍費を供給する持久力を有つて居るかに大に研究すべき問題である。

四、上海の文化上の地位

上海は經濟上の中心であり、政局を左右する大きな力を有つて居るだけでなく、又文化的に一の中心をなして居る。支那の混亂は支那の教育を荒廢に歸せしめた。秩序の破壊と經費を皆軍費に取られたため、學校の多くは閉鎖状態にあるが、たゞ上海の如き大開港場にあつては、外人により能く秩序を保たれ、教育も安全に行はれ得る。又支那の教育の一部は外人の手で行はれて居るが、外人の學校も多く上海等に集中されて居る。従て文化方面でも上海は支那の中心地たらんとして居る。殊に南北文化の二大中心たりし北京、上海の中で、北京は中央政府が南京に移轉して以來、文化的にも經費の關係から衰微の状態に入り、上海の中心的地位は高まりつゝある。

上海は流行的にも支那の中心となり、新しい流行は上海に始まつて各地に擴がりつゝあ

る。上海は支那の流行界の尖端を行つて居るだけでなく、或る點では世界のトップを切つて居るに云つても宜い。上海は支那に云ふよりも「上海國」に云ふ感じがする。支那でもなく外國でもない。上海は國際的であり特殊の臭ひを有つて居る。人種的にも甚だしい混血があり、一種の上海人なるものが生れ出しつゝある。彼等は甚だ無拘束な極端に自由奔放であるから、彼等が歐米流行界よりも一歩進んだ點にまで歩み出しても、そこに何等の不思議もない。従て悪い意味から云へば上海は東洋の掃き溜めの役目をも務めて居る。東洋の凡ふる罪惡の淵藪でもある。「上海文化」なるものが、將來はこゝから東洋の各地に發散されるかも知れない。東洋と西洋の種々の文化のカクテル見たやうなものが。

上海の將來は凡ふる點から見ても、支那の上海ではなくて、東洋の大上海に成長する可能性は充分に有つて居る。そこで以下上海の將來に就いて少しく検討して見たいと思ふ。

五、上海の將來

上海の將來がさうなるか、それは支那の政治、經濟の上に大きな關係を有つて居るだけでなく、對外的にも重大な影響を及ぼすために、上海の將來は支那の政局だけでなく、外國の出入によつて變化を受くるこゝが少くない。そこで内外兩方面から上海の將來に就て觀察を加へて見たいと思ふ。

1、上海租界を如何にする

上海の支那側の行政に就いては冒頭に略説したが、今後問題になるのは上海の租界をどうするか云ふことである。上海租界の特質は上海が共同租界であつて、他の多くの租界のやうに各國專管の租界でないことである。こゝに上海の國際的な色彩が濃厚に看取さるゝ。又上海以外の租界では列國の中にはこれを返還する意向を有つて居る所が少くないが上海だけは放棄する意圖はないやうであるから、上海租界なるものは何等かの形で残るだらう。上海租界をさうするかに就いては種々の方法があるだらうが、今日まで計畫され論議されたものは次の諸案である。

- 一、上海租界の改善
- 二、租界を撤廢し區域を擴大してこゝに一つの新しい區域を造る其内容には種々ある。

三、上海を切り離してこゝに獨立した一つの區域を造る。

こゝでは先づ第一の上海租界の改造に就いて述べて見たいと思ふ。上海租界の改造を説くためには、上海租界の歴史に就いて概説する必要がある。上海租界は始め英、米、佛等の專管租界として設けられ、次で英米租界は合併して公共租界となつたが、支那に對外運動が勃興するや支那人の參政權獲得運動となり、上海租界は始め列國人の共同から支那人をも加入せしめて次第に國際化されて居る。

上海共同租界の行政權は、一切自治體で行使するやうになつて居て、居留地内關係國の官憲は、たゞ其一員として直接これに參與し、又は其規則の制定及改廢に就て自治體で決定したものに承認を與ふるこゝによつて間接にこれに參與するだけである。自治體には議決執行の兩機關がある。

納稅者會議（公民會）は議決機關であつて議長たる主席領事及び執行委員選舉資格者を以て組織されて居る。其構成員たる資格條件は、

一、萬國居留地に居住する外人たるこゝ。

二、當人の支拂ふべき一切の課金を完納したるものなるこゝ。

三、價格五百兩以上の土地の所有者にして、土地課金又は家屋課金若くは双方年額十兩

以上を納付するもの、又は年評價家賃額五百兩以上を納付する家主たるこゝ。

次に執行機關は所謂共同租界參事會（工部局）これである。執行委員會委員（參事會員）たるべきものは、年次總會で選舉資格者の選任した五名乃至九名の外人で組織された。

かうした關係から共同租界内の支那人は全く租界行政に與らないために、支那人の參與運動が早くから起つた。

一九〇六年には支那人關係事項につき行政委員會に對して支那側の意見を傳達する機關として商人會を代表する支那人商人執行委員會を組織したいと提議したが、租界公民會で拒否された。一九一五年租界擴張問題が起つた際、支那側では支那人諮問機關設置方を提議したが實現に至らなかつた。

次で一九一九年偶々租界で租稅増徴問題が起つたので、支那側では同問題に關聯して租界行政參與を要求したが、行政委員會としての參加はものにならず、唯支那人諮問機關設

置だけが承認された。そこで支那側では一九二〇年六月に華人納稅籌備會を組織し、諮問委員選出のための章程を造り、これに基いて同年十月上海公共租界納稅委員會を設け、支那人納稅者から二十七名の代表を選出し、これをして五名の諮問委員を選ばせ、一九二一年五月第一回諮問委員の會合を催した。

一九二五年五卅事件の勃發は再び支那に其好機を與へた。支那側ではこれが解決十三ヶ條中に、工部局投票權問題に就て次のやうに述べて居る。

一、工部局市參事會及び納稅者會議は華人と共同組織す。納稅者代表の員數は納稅の多寡比例を以て定員を定め、其納稅者會議に於ける出席投票權は關係國外人は一律平等たること。

二、投票權に關しては其土地建物が自己所有なるか、代理なるかを查明し、自己所有者には投票を與ふるも、代理のものは其投票權を眞の所有者に與ふること。

然しこの問題も急速なる解決を見ず、其後公共租界納稅華人會等が盛んに活動した結果遂に工部局參事會員に支那人三名を加ふることを議決し、參政權獲得の第一歩に成功した

然し彼等はこれを以て満足することなく、租界の種々な問題は凡て租界規定、即ち洋涇濱章程に原因して居るから、該章程の改革から計らねばならぬこの議が納稅華人會の間に起り、洋涇濱章程改修委員會が組織され、種々實際的運動が進められた。

支那人が租界行政に参加しやうとする理由は、納稅者は參政の權利ありと云ふ原則に基くものであつて、公共租界人口の中で支那人八十一萬二千七百七十九人、外國人二萬九千九百四十七人、佛租界は支那人四十二萬一千八百八十五人、外人一萬二千九百二十二にして外人の數は支那人の三四分にしか當らない。(以上は一九三〇年四五月の調査)従て數に於ては支那人が優勢であつて、もし全住民に平等の權利を與ふることになれば、外人は忽ち支那人に壓倒さるゝ。支那人の唱ふる「納稅の義務あるものは參政の權利あり」この主張は支那人の納稅高が全部の五割五分を占むる今日では一應尤もらしく聞ふるが、外人側から見れば、次のやうな言ひ分がある。

一、元來租界は外人居留のために設けたもので、支那人は寄留者で、支那人の行き方によれば、外人は廂を借して母屋を取られた形になる。租界本來の性質が、その地域の行政

權を一時外人に譲つたもので、租界行政の全權は本來租界當事國の手にある。

二、上海の發達は一に外人八十年間の努力の結晶であつて、幾多の努力を經費を費して今日に至つたものである。然るに支那人は何等の努力を拂はずして出來上つたものを大威張で頂戴しやう云ふのは餘りに虫の好い話である。

三、支那人が今日までやり來つた所を見るに、支那人を租界行政の實際に参加させることになれば、折角整然と發達して來た租界行政を打ち壊はされる虞れがある。

以上のやうな理由から支那人の租界行政参加は拒まれて來たが、然し今日ではこの態度を維持することは著しく困難となり、遂に參事會に支那人の加入を見るに至つたが、それは第一には事實問題として、租界住民の大部分が支那人となつた今日では、租界の行政を全く支那人に無關心に行ふことは出來なくなつた。即ち租界が外人居住營業の區域でなくなり、其内容性質に變化が來たのである。第二には支那の不平等條約撤廢の運動は其中には幾多の矛盾があり、自ら爲すべき義務を盡さずして權利だけ要求して居るやうな嫌ひはあるが、これが一つの大勢であつて見れば、これもこの儘では置けない。そこで支那人の要

求にも耳を借さねばならないが、然し今日のやうに支那が混亂の道中にあり、上海の支那實業團が支那の或る黨派と結んで居るやうな場合には、支那人の參政權參與は支那軍閥政黨の影響を受け、租界行政を攪亂さるゝ虞れがあるから、この點は餘程氣を付けなければならぬ。

以上は主として外人と支那人間の關係に就いて述べたものであるが、共同租界には列國間の關係も亦残つて居る。上海に始めて開港場を開いたのは英國であり、第一に一八四五年に英米租界が設けられ、其後逐次擴大され、後公共租界となつて今日に及んだが、上海租界が英人の創設經營に負ふ所が多いだけに、租界行政も英人の手によることが多いが、工部局の如きも英國工部局の觀がある。然るに上海には其後各國人が集中し、殊に歐洲大戰後に於ける日本人の進出は目覺しく、數に於ては壓倒的多數を占め、紡績工場の如き百萬鎚を突破し、其他貿易、金融、航業に於て英國に劣らざるに至つた。其他米國の進出振りも著しく、上海は以前の如き英國の優越位置を見ることは出來なくて、列國勢力の混淆を來たしたため、共同租界行政の内容にも亦變化を及ぼし、英國の獨占的態度は各國の不平

を招くに至つた。従て租界行政にも各國の立場を平等に認むる必要が起り、英國が何時までも我が上海として濟しても居れない。

かうした内外双方面の變化は、上海租界の組織に何等かの變化を起さずには止まない。上海工部局電氣處の拂下げ問題の如きは其一つである。上海工部局の電燈及發電所は規模宏大にして一九二六年十二月三十一日現在に於ける投資額は三千四百九十萬五千九百六十一兩に達し、一九二七年度の賣上げ電流は四億萬キロワット以上に達して居る。この電氣處は投資額に地所の價格を加へ八千一百萬兩として國際財團、即ちインターナショナル・グループに拂ひ下げられたが、この英米財團は American & Foreign Power Co., Inc. 及び British Associates の聯合財團であるが、上海の電氣に重大關係を有つて居る邦人紡績側に於ても、この問題に就て研究調査を遂げた結果、各一流會社と合同して一の有力なる財團を組織し、前記讓受會社に参加することゝなつたが、日本側の參加額は全金額の五分即ち四百五萬兩で、これを紡績側で四分の一、三井、滿鐵、東方電力で四分の三を受持つことゝなつた。英國がこの問題を斷行するに至つた動機に就いては、上海租界の上に變動

が來た場合のこゝを考慮したのだと云はれて居る。上海の租界が急に返還されやうと思はれないし、又列國の方にもさうした意圖は無いやうだが、支那の租界回收運動は益々甚だしくなり、一方には支那人の租界行政權參與運動が進んで來るから、租界も今日のみ、では濟むまい。然るに租界に支那人の手が伸びて來た場合を考へて見ると、支那人が租界回收を企つる場合に第一に覘ふのは租界からうんご甘い汁を吸ひ上げやうにすることである。支那内地を散々に喰ひ荒したため富豪は開港場に逃れ、商工業も租界を中心に集まつて居る。丁度地曳網で魚を袋の中に曳き集めたやうなものだから、彼等が之れに延を垂して居るのは勿論のこゝで、この好餌を得んとする叫びが租界回收である。従て租界回收後第一に彼等が試みるのは税金を増すことである。然るに租界返還に當つては税金を妄りに増すことが出来ないやうに規定し、又増税には外支人の反對も起るので、これは容易になり得ないとなれば、次には公共事業を喰ひ荒すことになる。集つた収入を着服して公共の支出をやらないから、電燈は暗くなり道路は荒れ、水道は故障を來し町は不潔になる。これは租界を支那に回收されて特別區になつた區域の現状を見て明かに證明さるゝ、従てこ

れを防ぐためには支那官憲が公共事業に手を着け得ないやうにして置く必要がある。それには之を私人經營に移して置くのが最も賢策であらう。電氣處の拂ひ下けはこの意味でなされたとも云へる。同時に支那人の經營參加を防ぐことも出来る。支那人は官憲でなくとも私人としても公共事業に如何なる弊害を有つて居るかは世間周知の事實である。

電氣處が國際財團の手に渡つたに就いては、單に支那側との關係のみでなく、列國間の關係もあるやうに思はれる。上海を保持するのは、列國共同で持たねばならぬ。それには租界の財産を國際財團の手に移して置くことは賢明な策であつて、公共租界が其名に副ふやうに國際的になつて行く一つの現象とも見なければならぬ。

然し租界制度を飽まで保存して置くか否うかは大に考慮すべき問題であつて、こゝに種々の案が生れて来る。單に租界を撤廢しただけでは、外人の居住營業の安全は全く脅かされるから、何等かこれに代るべき新しい形式のものを必要とする。それには種々の案があるから、以下順次これを紹介して見たいと思ふ。

2、大上海の建設

租界放棄に就いての一つの案は、租界を開港場にまで擴大することにである。即ち租界を撤廢する代りに、これを開港場に擴大し、且つ開港場の意義を判然せしむることにである。

これには種々利害があつて、慎重な考慮が拂はなければならぬ。

開港場とは條約に據て外國人が居住營業の自由を認められた地域であつて、その點は租界と同じであるが、租界と異つて居るのは、開港場は支那の領土主權下にあるから、行政警察、納稅等は凡て支那の支配を受けねばならぬ。従て開港場は一方から見れば完全なる居住營業權を保持して居るから満足すべきもの、やうだが、一方行政、警察及納稅權が支那の掌中にあることから来る不安がある。即ち支那の現状から見れば、支那の混亂が治まり秩序が恢復され、生命財産の安全が確保されるまでには未だ相當の年月を要するやうに思はれるし、その期間に於ける行政の亂雜出鱈目、警察の有名無實にして全く信頼し難きこと、従て治安維持が保たれないこと、租稅の亂雜不統一につれ苛斂誅求行はれ、外人に對しても其手を伸して來ることは明である。これに對し外人が其不當課稅に抗議しても、從來の例に照して見れば大した効果は無いやうである。更に治外法權でも撤廢さるゝこと

になれば、開港場の有つ不安は一層増大するだらう。従てこの不安に對する保障が必要になる。

然し一方には租界から開港場に擴大する利益もある。現在の租界は地域が狭少であつても地價が甚だしく騰貴して居るために、工場でも設置しやうとしても第一に地域がなく第二には土地に莫大なる固定資本を寢かして置かねばならぬ。上海市支那街の面積が一百十萬畝であるのに、公共租界は三萬三千五百畝、佛租界は一萬五千畝である。この一畝云ふのは我が六畝〇六八七七である。

次に一九二七年中の共同租界及佛租界の各地に於ける地價一畝の平均價額を左に掲ぐる然して實際の價格は佛租界の場合は概して左に掲げたものと同様であるが、共同租界の場合は一 Generally 遙かにこれよりも高價である。

中部地方

- 黄浦灘 一六六、〇〇〇兩
- 愛多亞路

- 黄浦灘—河南路 一〇〇、〇〇〇
- 河南路—福建路 七一、七〇〇
- 福建路—西藏路 五七、〇〇〇
- 福州路
- 黄浦灘—河南路 一〇五、〇〇〇
- 河南路—福建路 八二、〇〇〇
- 福建路—西藏路 五七、〇〇〇
- 南京路
- 黄浦灘—河南路 一五一、〇〇〇
- 河南路—福建路 一一四、〇〇〇
- 福建路—西藏路 一一七、五〇〇
- 北京路
- 黄浦灘—河南路 八八、〇〇〇
- 河南路—福建路 四九、六〇〇

福建路—西藏路

百老滙路

蘇州河—斐倫路

吳淞路

蘇州河—文路

文路—鴨綠江路

鴨綠江路—北境

北四川路

蘇州河—文路

文路—北境

北河南路

蘇州河—文路

文路—北境

北浙江路

三八、八〇〇

九〇

五四、〇〇〇

三九、〇〇〇

二八、八〇〇

二五、〇〇〇

三七、〇〇〇

三三、五〇〇

二九、〇〇〇

二三、三〇〇

蘇州河—文路

文路—北境

東部地方：A 區域

百老滙路及楊樹浦路（河岸を含まず）

狄思威路—兆豐路

兆豐路—茂海路

茂海路—韜朋路

東漢壁禮路及塘山路

狄思威路—兆豐路

兆豐路—舟山路

舟山路—北境

滙山路

茂海路—韜朋路

韜朋路—蘭路

二二、六〇〇

二一、六〇〇

二〇、五〇〇

一四、二〇〇

九、三〇〇

一二、六〇〇

七、四〇〇

三、八〇〇

四、六〇〇

三、五〇〇

九一

東部地方：B 區域

楊樹浦路(河岸を含まず)

蘭路—臨青路

臨青路—貴陽路

貴陽路—終點

平涼路

蘭路—臨青路

臨青路—終點

華德路及周家嘴路

蘭路—楊市街

西部地方

愛多亞路、孟納拉路及福照路

西藏路—馬霍路

馬霍路—同孚路

五、六〇〇

四、六〇〇

四、〇〇〇

三、四〇〇

二、九〇〇

二、八〇〇

二五、〇〇〇

一四、一〇〇

一〇、二〇〇

一〇、〇〇〇

三六、八〇〇

二〇、四〇〇

一一、九〇〇

二〇、二〇〇

九、二〇〇

七、二〇〇

六、七〇〇

四、五〇〇

新開路

西藏路—卡德路

卡德路—小沙渡路

小沙渡路—膠州路

戈登路

新開路—海防路

海防路—宜昌路

黃浦江岸土地

蘇州河—虹口河

六七、〇〇〇

虹口河—怡和路

四四、〇〇〇

怡和路—蘭路

一五、三〇〇

蘭路—廣信路

一〇、九〇〇

廣信路—終點

八、二〇〇

蘇州河沿岸地

黃浦江—河南路

四八、三〇〇

北岸

七三、〇〇〇

南岸

二七、三〇〇

河南路—西藏路

三七、〇〇〇

北岸

一二、六〇〇

南岸

七、二〇〇

西藏路—麥根路

六、三〇〇

麥根路—東京路

一一〇、〇〇〇

東京路—租界西境

九五、〇〇〇

佛租界

佛租界黃浦灘路

五〇、〇〇〇

黃浦灘河岸

黃浦灘—佛工部局

一二〇、〇〇〇

佛工部局—敏體尼蔭路

霞飛路

八、〇〇〇

敏體尼蔭路—呂班路

六、五〇〇

呂班路—佛租界聖母院路

四、五〇〇

聖母院路—喜鐘路

善鐘路—海格路

辣斐德路

支那街—呂班路

呂班路—華助路

七、三〇〇

五、五〇〇

九五

白爾路

支那街—呂班路

佛租界徐家滙路

監維露路—呂班路

呂班路—亞爾培路

亞爾培路—徐家滙路

呂班路

霞飛路—辣斐德路

辣斐德路—徐家滙路

聖母院路

金神父路

亞爾培路

福照路—霞飛路

霞飛路—徐家滙路

九六

七、三〇〇

四、五〇〇

三、三五〇

三、〇〇〇

七、五〇〇

五、六〇〇

六、七五〇

四、七五〇

五、〇〇〇

四、一〇〇

善鐘路

祁齊路

福開森路

姚主教路

租界外

租界外工部局道路沿線地價の概算左の如し。

極司非路

東端—開納路

開納路—勃利南路

勃利南路—極司非公園

愚園路

東端

西端

安定盤路

四、二五〇

三、〇〇〇

三、一〇〇

二、九〇〇

七、〇〇〇

五、〇〇〇

四、五〇〇

七、五〇〇

五、〇〇〇

五、〇〇〇

九七

勃利南路	
東端鐵道	五、〇〇〇
鐵道—華倫路	三、〇〇〇
海格路	
靜安寺路—善鐘路	一〇、〇〇〇—六、〇〇〇
善鐘路—霞飛路	六、〇〇〇—五、〇〇〇
虹橋路	
徐家滙—鐵道	二、〇〇〇
鐵道—羅別根路	一、六〇〇
大西路	
海格路—安定盤路	八、〇〇〇—五、〇〇〇
大西路延長	
安定盤路—鐵道	五、〇〇〇—三、五〇〇
鐵道—華倫路	二、五〇〇

華倫路	二、〇〇〇
北四川路延長	
租界境—虹口運河	二五、〇〇〇
虹口運河—射的場	一八、〇〇〇—一、〇〇〇
江灣路	
新公園の西部	七、〇〇〇
寶山路(北河南路延長)	一二、〇〇〇

以上は租界の延長區域とも見るべきものであるが、工部局道路から一哩以上離れて運河又は道路の便のない農業地、即ち閘北或は支那街の地價は一畝約三百兩である。又長江下流一般農地の價格は五六十元から七八十元であつて、北支那は三四十元から四五十元である。従て一般地價に比較して見れば、上海の地價は甚だしく高く、殊に租界目貫の場所に於て著しきを見る。

上海の地價が以上の如くであるが、工場地帯である楊樹浦や蘇州河沿岸の如き便益の地

は特に地價の高い所であるから、こゝに今後新に工場を設くるには著しい困難がある。そこで工場設置には租界外に地域獲得の必要が起る。そこで最も安全なのは租界を擴大するにあるが、今日の情勢では中々困難なところであるから、こゝに問題は安全ではあるが地域の狭い租界を捨て、多少の不安はあるが地域の廣い開港場に移るか否うか云ふことである。然るにこれには次のやうな問題が横つて居る。

第一は開港場の地域の問題である。これに關しては支那側と外國側とは全く異つた解釋を取つて居る。支那側では租界即ち開港場云ふ最も狹義な解釋によつて居るから、租界外は開港場とは認めないことになる。さうなれば租界に附隨する外人の諸權利も大なる關係を有つて来る。即ち外人は開港場に於て工場を設置し得ることになつて居るが、支那側の解釋によれば租界外には工場は造れない。然し事實は租界外にも工場を設けて居る。これ外人の解釋によれば、開港場の意義を廣く取り、或る者は常關の管轄區域だと解して居るし、或る者は上海及其郊外を含め、或る者は港云ふ意義から上海及吳淞までも含め或る者は行政區域による上海特別市の範圍と見て居る。然し租界があればかゝる漠然たる

解釋でも宜いが、租界が撤廢され之れに代ふるに開港場を以てすることになれば、こゝに開港場區域を如何に定めるか、當然問題になる。この場合上海の將來から云へば、寧ろ大上海區域を定め上海から吳淞及郊外一帯を含む大規模のものとする必要がある。

次には開港場の性質をもつて判きりさせて置く必要がある。開港場では外人は營業居住の權はあるが土地の永租權はない。私法上種々の辦法を講じ、土地を所有して工場を經營したりしては居るが、公法上の確たる權利によつたのではない。營業居住は土地永租の上立つべきもので、營業居住權あつて土地永租權がないのは甚だ矛盾して居る。従て租界を開港場に擴大するならば、この際開港場區域内に於ける土地永租權は支那側に確認させなければならぬ。

次にはこの開港場區域内の治安維持のため如何なる警察制度を設くるかである。從來支那で行はれて居るやうなものならば、支那側が如何に人員を精選しても、如何に保證しやうとも不安を免るゝことは出来ない。従てこの際採用さるべき最良の手段は、官憲の手を成るべく排撃し、官製の警察を排し、住民の自衛を原則とすべきものである。このことに

關しては更に後述するが、とにかく其大體の要領は各住民が自ら自衛をやるのであるから支那人の住んで居る所は支那人が自衛し、外人の住んで居る所は外人が自衛することにすれば一番宜いのである。次には治外法權の撤廢があるが、治外法權が上海からも撤廢されたいなれば、上海に於ける統治權は凡て支那側に歸し、上海が全部支那官憲の支配下に置かれる、ここになるから、前記の自衛團による治安維持の如きも行はれなくなる。従て上海を將來外人經濟發展の根據地とするためには、上海は治外法權撤廢の範圍外に置かねばならぬ。然らば現在租界が有つて居る行政權はさうなるか、もし租界と共に行政權を捨てることになれば、支那側の行政權行使により外人側の有つて居る治外法權は浸蝕されて用をなさないやうになりはしないか、これは治外法權を撤廢した場合に租界行政權が役に立たないやうになるだらうと云ふ推察と同じ理由から出て來たものである。もう一つは行政權に伴ひ立法權も自然移轉することになるだらうし、そこに起つて來るのは現在支那に行はれて居るやうな亂暴極まる苛斂誅求の手が外人の上に襲ふて來ることである。これは外人に取つては最も迷惑なもので、外人の營業居住の安全を根本から脅かすものである。従てこれに

對する何等かの方法が取られねばならぬ。これがもし住民の自治的に進むならば、外人に取つては最も好都合であるが、それは現在の租界に於て支那人の權利を増大し、その代りに租界の範圍を擴げたやうな結果になり、今日の狀勢では支那政府がかゝる案に賛成するかさうかは甚だ疑問である。

上海の現在の發展から推して大上海を建設しやうとする企ては少くない。支那政府の方では現在の外國租界に對抗して下流吳淞との間に新たな支那自身の新上海を造つて對抗せんとして居るが、さう簡單にも行かないだらう。

3、上海中心主義

最近列國の間に上海中心主義とも云ふべき一つの現象が現はれて來た。それは奥地の小開港場や租界を捨て、凡てを上海に集中し、上海だけを確實に保持せんとするものである。かうした現象が現はれて來たに就いては二つの理由がある。

一つは支那に於ける不平等條約撤廢の運動が進んで來たことである。支那の不平等條約撤廢は一九二五年の五卅事件により高潮に達し、全國的な國民運動となつたのである。國

民政府が南京に設けらるゝや、其從來の主張に基き、不平等條約撤廢の實現に邁進することとなり、第一に關稅自主權の獲得に成功したか、これと共に治外法權の撤廢、租界回收の運動が進んで來た。租界回收はロシアの革命及對獨逸宣戰の結果として先づ天津及漢口にある露獨領租界の回收に成功し、次で國民革命軍が北伐の機會に乘じ英國の漢口及九江租界を奪取するや、英國は支那と協定して之を返還するに至つた。次で白耳義の天津租界が返還され、最近に至つて英國の鎮江及厦門租界が返還された、又天津租界に就いても英國は嘗て返還の意あることを仄した。かうして今日英國の保持して居る租界は天津、廣東位のものである。英國は防備困難な多くの租界を保持するよりも、上海だけを確實に守らうとして居る。米國はもとより上海の公共租界を有つて居るだけだし、比較的多くの租界を有つて居るのは日本とフランス位のものであらう。かうして支那の租界回收運動が次第に進展して來る一方には、治外法權撤廢の運動が進んで來るが、治外法權の撤廢は租界を骨抜きに至らしむる虞れがあり、この方面からも上海中心主義は進んで來た。

一つは支那の混亂により貿易投資が次第に上海の如き海岸の主要開港場に集められつゝ、

ある。支那の混亂は外人の生命財産の不安を來し、外人は支那の内地に投資することを避け、從來投資して居たのも海岸の主要港殊に上海に引上げつゝある。殊に固定資本を投下するが如き事業に於ては益々然りである。たゞ日本の如きは山東鐵道を保持して居た關係からして、滿州を除く支那本部に於ては山東沿線と上海に主として集中されつゝある。かうした現象は近年特に目立つて來た。貿易に就いても同じことが云へる。然し貿易の大開港集中には二つの理由がある。一つは支那貿易形態が自然に變つて來たことである。これを日支貿易に就て見るに、從來は日本の會社商店の支店或は在支貿易商により日本輸入品が取扱はれ、支那側問屋は日本の輸入商から仕入れて居たが、是等輸入商は數次の排日や銀貨の變動又は戰亂に災され、或は本國の不況による本店の倒閉のため引上げるもの續出した。それに支那側問屋筋が日本に出張所を出して直接仕入れを試みるものが増加し、日本商店の減少を來した。一方では戰亂、共產黨の農民革命、反帝國主義運動、土匪等に災されて、從來外人は自ら奥地に至つて賣込みを行ひ、或は買出しをやつて居たのが、支那人が自ら開港場に來つて賣込み或は買出しを行ふに至つた。それも混亂が進むに従ひ奥地の

小開港場も危険となり大開港場集中主義が進捗するに至つた。

以上述べたやうな二つの現象は列國の間に上海集中主義を試みしむるに至り、英國の如きは長江各地の租界を返還して上海だけに主力を注ぎ、治外法權の撤廢に於ても上海だけは除外例を求めんとして居るに傳へられて居る。列國が上海を見るに日本が滿州を見るに同じ考への下にあることは從來幾多の言論に見ても明かである。

然らばこの上海中心主義なるものは果して成立し得るものであらうか、これには幾多の疑問がある。其主なるものは擧げて見るに、支那側の不平等條約撤廢の空氣に對するため、上海に主力を集中して之れを固守しやうとする計畫は、結局破綻を生じはしないかと思はれる。支那の不平等條約撤廢の風潮は行く所まで行かなければ止まないだらうし、上海以外の租界が撤廢された場合には全力を上海租界の奪取に集中するであらう。それまでには相當の時日を要するにしろ、結局そこまで進んで來て、上海租界のみを保持するに云ふことは難しくなる。

次には上海が今日の大をなして居るのは、長江の出口を扼して揚子江流域の豊饒な大平

野に長江の大水運を有して居るからである。所が長江流域が次第に混亂荒廢して來るやうになれば、長江一帯の生産力購買力は減退し、又工業原料を仰ぐことも出來なくなるから上海の背後地は狭くなり、大上海の保持は困難になる。今日上海の繁榮は、上海の産業にもよるが、支那内地混亂のため、富豪が安全の地を求めて上海に集中して居る關係も少くない。彼等は現在財産により暮して居るが、座食は長く続くものでなく、彼等財産の根源である地方が涸渇しては上海も結局寂れざるを得ない。従て支那の混亂が猶増大するにすれば、上海によつて從來の如き貿易企業を續けて行くことは困難になる。従て上海の繁榮には其背後地の安全が必要になる。

上海中心主義の實行には上述の如き困難が伴ふものであるが、これを實行するにすれば次のやうな利害が伴ふものである。

即ち利益としては或る程度まで支那側の不平等條約撤廢の氣勢を殺ぐことが出来るの支那の混亂に際して奥地居留民の保護が甚だ簡單である。然し一方不利な方面を述べて見るに、不平等條約撤廢の氣勢を緩和し得るのは一時であり、結局は列國が譲り得る最後の

線に早く到達して衝突を眞剣ならしむる虞れもある。又外人と支那内地との接觸面を狭くして支那内地の産業を開廢し貿易額を増大する意味から云へば不利益である。故に求めて上海中心主義を取るべきか、自然の推移に委し、たゞ上海を如何にするかを考へた方が宜いかは大に考慮すべき問題である。

4、上海自治案

以上述べたのは主として外人側の運動であるが、支那人側にも種々の運動が起つて居るその一つは上海自治運動である。北伐軍が長江を下つて來た際に、孫傳芳の軍隊が引上げ國民革命軍が入つて來る前に、其間隙に乗じて上海を自治體とし、北方軍閥も國民黨も排撃して上海を市民の自治に歸せしめやうとする運動があつたが、遂に物にはならず終つた。然しかうした氣運は絶えず上海住民の間には漲つて居るが、たゞ力が及ばないために表面に現はれないだけである。支那の民衆が軍閥官僚の誅求から免れやうとする努力は支那の到る所に行はれて居る。殊に彼等の第一の搾取目標となるのは大都市である。廣東、武漢、京津の如く從來政治の中心となつた所は今まで酷く搾られて來た。そのために人民

の種々の自衛運動が起つた。殊に廣東政府の所在地であつた廣東は、其搾取が最も甚だしかつたため、遂に商團軍を組織して廣東政府の搾取に反抗し、孫文政府の軍隊と衝突して失敗したが、其運動は大に注目すべきものであつた。上海は他の地方と異つて、從來政治の中心に遠ざかつて居たため、軍閥官僚の搾取を受くることも少かつたが、南京政府が出來てから其兵站地となつた。然し以前からも廣東の商團軍程ではないが、上海各町村（租界を除く）には自衛團を設けて居たのを、數年前にこの自衛團を廢して官憲から警備隊を置かんとし、人民の方で反對したから紛争を起したことがある。上海は都會が大きいので從來割合に搾取さるゝことが少かつたのも、廣東のやうに民衆の力が強くないために、統一的な具體的な運動は起つて居ないが、人民自治は支那政治組織の本源をなすものである支那は建國以來社稷自治を政治の本體として認めて來た。故に支那人の思想は國家主義でなく天下主義である。社稷の意義は社は土地の神であつて、稷は食物である。即ち一定の土地と人民とを意味し、或る土地に於ける人民の衣食住の安定を基礎とする自治が社稷自治である。故に支那の政治組織は各地方自治體の上に支那と云ふ國を支へて居る形のもの

であるから、上方の組織は成るべくこれを簡單にし、下方の自治體に多くの力を有たせるものである。即ち農村では各部落の自治自衛を行ひ、土豪劣紳、軍隊官吏、國民黨員、共產黨員等の異分子雜分子を村から驅逐して農村の淨化運動を行ひ、村人だけの自治に歸るのが支那革命の到達點である。都市は同じく都市の町内組合、同業組合等が主體となつて自治を行ひ、他分子を排撃することによつて眞の平和は來る。上海市の自治運動はこの味意で企てられたが、彼等は忽ち武力のため影を潜めた。かうした企ては南洋華僑により福建省でも計畫されたことがある。それは南洋華僑が折角成功して郷里に歸つて來ても、軍閥跋扈の支那では資産を彼等に捲き上げられ、全く投資が出来ないので、福建の一部を劃して華僑の自治郷を造り、この區域の警備は華僑の雇入れた軍隊により、行政司法其他一切は彼等の自治によらんとしたが、軍隊の防害により全く失敗に歸した、今日の狀態に於て完全なる自治が獲られることは至難であるが、成るべく自治の範圍を擴大することは努力如何によつては成し得ないことはあるまい。

5、上海獨立運動

今までに述べたやうな運動よりも更に徹底して、上海を全然切り離して一つの獨立地帯とせんとする試みがある。それは國民革命や共產革命に反對し、支那本來の革命を實行せんとする一派にして、三民主義のやうな國家主義排他主義ではなく、社稷自治の趣旨に基き、上海を中心とした一の自治區域を造らんとするものである。彼等は國民黨の國家主義を排し人民本位の政治を主張する。彼等に云はすれば國民黨の救國主義は結局救黨主義となり、救黨主義は救自己主義に墮するのだと。それは現實に於て正に然りで、救國の看板の下に徒らに利己を營むに汲々として居る。そこでこの一派は決して救國を唱へず、人民の利益を本位とする。又強いて統一を求めず、或る一定の地域に眞に人民のための政治を施す。かうした地域を同志の存在して居る各地に設け、人民の利益を主とした政治をやつて居る間には、全國の人民は次第に其化を慕ひ、其範圍は次第に擴がつて全國的になるだらうと。彼等の外國に對する考へも現在の國民黨とは全然異つて居て、外人が支那に來て産業を開發しやうが一向差支へない。その結果が支那人民の生活を豊にし人民に職を與へるここになるならば外人たる支那人たることを問はない。要は人民の利益が本位であること。

この點は理論上多少疑問はあるが彼等の主張に従へばさうである。彼等はかうした區域を先づ上海を中心に設けやうとして居る。然しそれには外人の力を借らなくては出来ないで、彼等の計畫は上海自由國を外支人協同の下に造り上げやうとするもので、この間の戰爭中にも上海と南京の間の鐵道を遮斷して上海を切り離さうと計畫したが失敗した。この革命の趣旨は大に道理があるが、實現は甚だ困難であつて、外國の有力なる援助がなくては出来ない。然しこゝに或る國の有力な援助によりかゝるものを造るゝ假想して之の案を少しく點檢して見やう。

この案で第一に問題になるのは地域である。上海を獨立させるゝ云つても、上海市だけを切り離すゝは成功しない。從つて廣い意味の大上海區域を造らねばないが、それは防備及經濟の上から其地域を定めねばならぬ。上海は今日各軍閥爭奪の的となり、又南京政府の主要財源となつて居るから、是等のものゝ侵掠に對して之を防護せねばならぬ。其ために地形を顧慮し要點を抑へてこゝに簡單な要塞見たやうなものを造るゝして、上海附近の太湖其他の湖沼を利用し、少くも常州、吳江、松江等の線から以内を保留し、又楊子江

の北岸一部をも保持しなければなるまい。又經濟上から云へば上海の工場の原料供給のためにも、又上海の工場區域である無錫、蘇州、太倉、通州、南匯等の工業小都市は上海工業區域の一部と見るべきものであつて、當然上海自治區域に加へなければならぬ。

内部の組織に就いては彼等は外支人の協同自治によるゝ云ふが、彼等本來の方針は住民自治主義であるから、支那人の居住する上海以外の土地は純然たる支那人の自治により、外支人混住の上海市は外支人の協同自治によるだらうし、恰も租界を開港場に擴大した場合の如き結果になるだらう。

この計畫が果して成功するか否かは、次に揚ぐる要件が成立つゝこゝを前提とする。軍事上からは防備が充分で、軍閥の攻略に對し充分持久が出来なければならぬ。軍費の點では上海の富を以てすれば充分であらうが、兵力の不足は武器と要塞を以て補ふゝして矢張り外國の援助がなくては怪しい。列國が反對派に一切武器を供給しないだけでも非常な相違である。

次には經濟封鎖に對する抵抗力の如何である。この地方は土地豊沃であつて生活は比較

的に豊かである。工業地帯であるために、原料の補給と販路を必要とする。従て完全に經濟封鎖が行はるれば、航運により南北支那に活路を求むる外ないが、長江支流に對しては、長江の出口を扼して居るために、長江上流區域は同じく非常な困厄に陥る。上海の貿易及産業は其奥地が甚だしく狭くなるために大なる打撃を蒙らざるを得ない。従て相互に經濟封鎖の不利な所から、こゝに通商協定を結ぶか、或は上海自治國の範圍を次第に擴大する外はない。従てこの上海自治區域も永久的のものではあり得ない。

次には上海が切り離された場合の結果を豫想して見るに、政治的には中央集權の實行が甚だしく困難になる。中央集權を實行するためには多くの兵力を必要とし、これを養ふための財源を要する。その財源を今日供給して居るのは上海であるから、上海が獨立した場合には、其他の都市はいづれも同大小異で、廣東、武漢、天津にしても、自己の周圍を堅むるだけの力しかなく、徒らに武力統一を夢みて天下を攪亂する覇者の出現は困難なるこれ財力が各地に分散するからである。北京政府の統一は外人により關稅、鹽稅、鐵道等の管理監督をやつて貰つて、北京政府に金が集まつたからで、鐵道及鹽稅が分割され、關

稅も亦分割の運命にある今日では、主要開港場を有すものが權力を有つことになる。従て上海が除外されたまなれば、残りにはドン栗の背較べて、結局支那は聯邦的な地方分權制に進み、支那のためには順潮な進み方をするだらうし、中央政府が出来ても非中央集權的な形を取るだらう。

要するに上海自治區域の構成案は、實現するかさうか分らないし、又實現するにしても今急に成功することもないだらうが、外支双方に取つて重大な影響を與ふるものだけに、充分に研究して置く價値は確かにある。

6、上海は何處へ行く

上海の政治、經濟、文化上の價値の重大性、上海をさうするか否かの種々の運動に就いては一通り述べたが、然らば上海の將來はさうなるだらうか、それを推斷するには上海の將來に作用する種々な力に就て一々探究して見なければならぬ。

上海の租界を中心として見ても、これを動かす三つの異つた力があつて、各々上海を自分に向つた方向に向つて行かうとして居る。三つの力に云ふのは列國の上海を保持しや

うごする力、支那政府の上海を奪回しやうごする運動、住民が上海の自治を得やうごする希望の三つである。

列國は何れの國も例外なく上海を確實に保持することは希望する。これ資本主義列國にしては、自國の存立上支那の市場から手を引くことは出来ない。寧ろ益々發展を希望して居る位である。従て列國對支經濟發展の根據地である上海は、如何なる場合に於ても之を保持しなければ、支那の混亂期に於て對支貿易及企業を續けて行くことは出来ない。故に列國としては、更にこれを擴大安全にしたい希望を有つて居る。そこで米國の上海中立區域の提案見たやうなものも飛出した譯である。

然るに支那政府は國權恢復、不平等條約撤廢の趣旨からして、逐次租界を回收せんとし既に少からざる租界は回收され、更に其他の租界にも及ぼさんとして居る。上海租界の回收は勿論最後に來るだらうが、然し大勢は次第にさう進んで居て、支那人の租界行政權參加の運動、會審衙門の回收等一步づ、踏み込んで來て居る。この運動は外人の上海保持の運動とは衝突する。

一方住民の方はどうか云ふに、彼等は容易に本音を吐くことは無いが、彼等の眞意は凡ての桎梏から脱れて住民の自治を行ふことである。彼等は國民政府も軍閥も凡て信用して居ないのである。又何れも彼等を搾取するものとして好感を有つては居ない。彼等はかう云つて居る。「我々は如何なる政府からも決して善政を期待しては居ない。然しどうせ政府が出来ることすれば、それは止むを得ないこととして、成るだけ害毒の少ないものが出て來れば宜いと思つて居る」云々。これが支那大衆の飾らざる眞意である。従て一つの權力者を歓迎したとしたならば、それは決して其人を眞に喜び迎へたのではなくて、舊來の權力者より比較的惡の度が少いために外ならない。最も宜いのは支配者がなくて、彼等自身の自治自衛に任さるゝことである。其結果が上海市の自治運動ともなり、自衛團の編成ともなつたのである。

この三つの異つた運動は、全く相反した所もあるが、又相調和する所もあるし、これが合流した場合に如何なる方向に向ふかはこの三つの力の強弱にも關係するだらうが、この三つの力の強弱は必ずしも不變のものではなく、現在は不平等條約撤廢の運動が最も力強く

動いては居るけれども、將來はさうなるか分らない。列國の意圖に國民政府の希望は全體に於て相反して居るが、人民の希望に列國の考へは相一致する點も少くない。従て兩者の間には協調が成り立ち得る。又支那の政府にしても、もつと異つた對外的な方針を有つた政府が出て來れば、この間の關係はずつと變化して來るだらう。

次に上海の將來に最も大なる關係を有つものは支那政局の變化である。現在の國民政府が永續するが、或は共產黨の活動が將來一層盛んになるか否うか、戦亂が何時まで繼續するか云ふやうなことは、全く上海の運命を支配するに云つても宜い位である。

現在の國民政府は國民黨の政府に云ふよりも、資本家と軍閥の結合によつて成つた政府に云つた方が當つて居るかも知れない。従て現在の南京政府が續く限りは、上海の産業發達に向つては大に努力するだらう。南京政府の方針としては、國內産業の保護獎勵のために、關稅自主權を獲得し、更に保護政策に向つて進まんとし、或は自國工業の特別保護法を採用せんとし、或は資本家のために階級争鬭の理論を否認して勞資協調政策を採り、生糸の改良を試し、航運業を獎勵する等の事實は凡て現政府の行き方を示して居る。北伐終

了後浙江軍閥と浙江財閥との關係は益々密接となり、相互依存の形になつて居るから、上海の商工業は益々發達に向ふであらうし、其結果は又資本家の力が大きくなり、政府の政策に作用する所が甚大になる。即ち現在の政府は支那の資本主義發達のためには甚だ有利である。従てもし現政府が倒れて左派が政權を執るにこそなれば、勞働運動が起つて見たりして、この形勢は若干變化して來るだらう。

次には共產黨の問題である。共產黨の活動は最近次第に其範圍を擴大し、湖南、湖北、江西、福建、廣東から、更に江蘇及河南にまで波及して居るが、其活動範圍が長江流域に當つて居るだけに、上海に取つては少からざる打撃である。共產黨の目標は反帝國主義と反資本主義である。外人の長江沿岸に於ける經濟的施設は荒され、資本家及地主は打倒さるゝために、支那の内地は經濟的に荒廢し、住民は流亡して生産は減退し、購買力は減少する有様であつて、交通も亦杜絶さるゝから、上海は其奥地を荒されて著しく打撃を受くる。もし共產黨活躍の舞臺が更に現在の湖南、湖北、江西の中流地帯から、更に下流の江蘇、安徽浙江方面に擴大さるゝに至つたならば、上海に取つては少からざる惡影響を及ぼ

す。従て共産黨が或る程度の成功を収めた時は勿論、單に長江に騷擾を續けて居るだけでも相當の災である。

戰亂の繼續も亦同じ影響を上海發達の將來に與へる。上海が大上海として發展するためには、こゝに商工業が盛んに起らなければならぬ。商工業が興るためには上海の背後に廣大なる商勢力範圍を有し、こゝから原料を仰ぎ、こゝに製品を賣らねばならぬ。それには第一に交通が發達し、これが安全に運行されなければならないが、現在では戰亂の結果交通機關は發達せず、現存の交通機關も阻害されて大に其効果を減少して居る。加ふるに厘金其他の通過税は物品の移動を妨げて居る。更に戰亂のため重税を課せられて人民疲弊し、生産減少して購買力がないから、上海だけが獨り發達することは困難である。現在各開港場の人口が増へ建物が増し、一見繁華に赴いたやうに見えるのは、商工業の發達から來たのでなく、地方で軍隊、土匪、共産黨に脅かされた有産階級のものや、生活に窮した無産者が逃げ出して來たからである。是等の有産者は現在財産によつて徒食して居るが、其生活の根據は農村にあるから、農村が荒廢して來れば長くは現状を維持し得ない。従て

戰亂が長く續けば本枯れて末全からずの例の如く、上海の發展も前途大なる障礙を受けざるを得ない。従て農村の安定も否は、上海に取つては重大な問題である。

又對外方面に於ては、支那の不平等條約撤廢の運動が進展し、上海租界が返還さるゝやうなこゝになれば、上海に於ける外交人の生命財産の安全は甚だしく脅かされ、外人企業の主なるものである紡績工場の如きも不安に曝露され、租界の庇護下に發達して來た新興商工業は大打撃を蒙り、上海の發達は大に阻害さるゝだらう。又一方では外國貿易は從來外人が支那に出掛けて輸入を行つて居たのが、既に前にも述べたやうに、支那人が日本等へ出張所を設けて直取引を行ふやうになつたため、邦人輸入商の如き引上げるものを生じて來た。是等の事實を種々綜合して見るに、現状のまゝで押して行けば、上海の前途も必ずしも順潮に發展して行くものさだけは思はれない。

然るに上海の前途如何は支那及列國に取つて重大な問題であつて、上海の發展は支那に經濟上の重點を與ふるに共に、政治的にも一つの中心を造り、政治組織を中央集權に向はしむるに共に、反對の場合に於ては支那は地方分權的の傾向を帶ぶるに至るであらう。又

上海の治安秩序が安全になれば支那の新しい商工業に勃興して来るだらうし、さうでなければ反對の結果になる。又列國にして見れば、上海に於ける外人の居住營業が安全確實になれば外人の企業も興り貿易も盛んになるだらうが、不安になれば外人の企業は困難になり單に貿易だけになるだらう。又貿易の上にも種々の影響變化が来るだらう。上海がさうなるか、上海をさうすれば宜いか云ふことは、今後列國對支政策の基調となるだらう。

規約

- 一、「支那問題研究」は支那の政治社會經濟に關する重要な事項を研究發表するものとする。
- 二、發行は概ね年四回とし會員のみに分配す。毎冊百頁以上とし尙臨時に刊行物を配布す。
- 三、會費は一箇年三圓とし、拂込は前金とする。
- 四、本會員には當研究所發行の圖書を三割引にて提供す。

(非賣品)

昭和六年三月七日印刷
昭和六年三月十日發行

著作兼 發行者 長野 朗
東京市外青山原宿一七〇ノ二〇

印刷人 土井 儀一郎
東京市京橋區築地二ノ六

印刷所 典文社 土井印刷所
東京市京橋區築地二ノ六

發行所 支那問題研究所

東京市外青山原宿百七拾番地二十號
振替口座東京一六九一九番

590
410

一、	...
二、	...
三、	...
四、	...
五、	...
六、	...
七、	...
八、	...
九、	...
十、	...

590
410

590
410

NO.

PATENTED NO. 119016

“F-M”

PAMPHLET BINDERS

are carried in stock in the following sizes

Catalog No.	High	Wide	Thick
851(菊倍)	30. cm. x	22.5cm. x	1cm.
852(四六倍)	26. „ x	18.5 „ x	1 „
853(菊)	22.5 „ x	15. „ x	1 „
854(四六)	18.5 „ x	12.5 „ x	1 „
855(特)	24. „ x	15. „ x	1 „

Special sizes are made to order

LIBRARY SUPPLIES IN ALL KINDS

F. MAMIYA & CO.

OSAKA-TOKYO-FUKUOKA

